

National University
Corporation
Gunma University
2012



国立大学法人

群馬大学

概

平成24年度版

要



群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

群馬大学は、上毛三山に抱かれた明るく豊かな自然風土の下、昭和二十四年に新制の国立大学として誕生した。それ以後、北関東を代表する総合大学として、有為な人材を育成するとともに、真理と平和を希求し、深遠な学理とその応用を考究し、世界の繁栄と人類の福祉に貢献することを目的として、その社会的使命を果たしてきた。

二十世紀後半は、科学技術の飛躍的発展と経済の繁栄に象徴される時代であり、同時に、人類の生存と繁栄の根幹に関わる諸問題が地球的規模において顕在化した時代でもあった。この中であって、本学は、教育学、社会情報学、医学、工学の各分野における教育及び研究を通して、真摯に時代の要請に応えてきた。

ここにおいて、群馬大学は、二十一世紀を多面的かつ総合的に展望し、地球規模の多様なニーズに応えるため、新しい時代の教育及び研究の担い手として、次の基本理念を宣言する。

基本理念

1. 新しい困難な諸課題に意欲的、創造的に取り組むことができ、幅広い国際的視野を備え、かつ人間の尊厳の理念に立脚して社会で活躍できる人材を育成する。
2. 教育及び研究活動を世界的水準に高めるため、国内外の教育研究機関と連携し、世界の英知と科学・技術の粋を集め、常に切磋琢磨し、最先端の創造的な学術研究を推進する。
3. 教育及び研究の一層の活性化と個性化を実現するため、大学構成員の自主性、自律性を尊重し、学問の自由とその制度的保障である大学の自治を確立するとともに、それに対する大学としての厳しい自己責任を認識し、開かれた大学として不断の意識改革に務める。



目 標

1. 教育の目標

- (1) 学生の自主的で創造的な勉学を促進する学修環境を整えるとともに、学生が本来持っている潜在的な能力とエネルギーを引き出すため最大限の支援を行う。
- (2) 教養教育においては、その重要性を認識し、全学的な協力体制の下、専門教育との連携を図りながら、幅広く深い教養、総合的な判断力、そして自然との共生を基盤とした豊かな人間性を涵養する。
- (3) 学部専門教育においては、教養教育との融合を図りつつ、各専門分野の最新の知見及び技術を修得しうる基礎的能力を育成し、豊かな知性と感性及び広い視野を持ち、学士力に裏打ちされた、社会から信頼される人材を養成する。
- (4) 大学院教育においては、高い倫理感と豊かな学識に立脚し、学部専門教育との関連を視野において、実践力を有する高度専門職業人及び創造的能力を備えた研究者を養成する。

産業界や自治体等との共同研究・共同事業を推進し、その成果を広く社会に還元する。

3. 社会貢献等の目標

- (1) 地域の知の拠点として学内外の関係機関と連携した活動を通じて、地域の文化及び伝統を育み、豊かな地域社会を創造する活動を行うとともに、知の地域社会への還元を推進し、産業の発展に貢献する。
- (2) 地域医療を担う中核として医療福祉の向上にあたるとともに、地域住民の多様な学習意欲や技術開発ニーズに応え、地域社会の活性化に貢献する。
- (3) 国際的視野の下で教育研究を充実する観点から、留学生の受け入れ及び本学学生の海外派遣を推進するとともに、海外の大学等との学術交流や教職員の国際交流を進める。

4. 大学運営の目標

- (1) 学長のリーダーシップの下で経営戦略を明確にし、大学構成員の能力を引き出し、自主性、自律性を持って効率的な大学運営に当たる。
- (2) 大学内での情報共有化と社会に対する大学情報の積極的な発信に努め、学内外への説明責任を果たす。
- (3) 不断の点検・評価と改革を推進し、大学の活力を維持発展させるとともに、大学の諸活動の質的向上を図る。

2. 研究の目標

- (1) 専門分野において独創的な研究を展開するとともに、特に重点研究領域において国内外の大学・研究機関と連携して先端的研究を推進し、国際的な研究・人材育成の拠点を形成する。
- (2) 基礎的研究と応用的、実践的研究との融合を図り

(平成22年4月1日)



目次

理念及び目標	表紙裏面～1
目次	3
学長からのメッセージ	4～5
〈組織・運営〉	
歴代学長	6
沿革	6～7
管理運営組織	8
事務組織	8
教育・研究組織	9
役員・副学長・顧問・特任教授	10
経営協議会・教育研究評議会	10
部局長等	11
〈大学・大学院等〉	
教育学部	12～13
社会情報学部	14
医学部	15～16
医学部附属病院	17
工学部	18～19
生体調節研究所	20
総合情報メディアセンター	20
大学教育・学生支援機構	21
研究・産学連携戦略推進機構	22
重粒子線医学推進機構	23
学内共同教育研究施設	24
共同研究拠点等	24
〈特色ある研究・教育・社会貢献活動〉	
主な教育研究補助金採択状況	25
平成23年度地域貢献事業一覧	26
公開講座・開放講座〔平成24年度〕	27
〈学生状況〉	
学生の数	28～29
入学志願状況等	30～31
卒業・修了者数・学位授与者数	32
卒業後の状況	33
〈国際交流〉	
国際交流協定	34～35
外国人留学生数	36
〈財務状況等〉	
平成24年度収入・支出予算額	37
研究費等受入状況	38
職員の数	39
土地・建物面積	39
〈キャンパス〉	
部局等所在地	40
部局等所在地分布図	41
建物配置図	42～45
交通アクセス	46～48
学生歌	49



群馬大学荒牧地区



■ 学長からのメッセージ

群馬大学長 **高田 邦昭**

Takata, Kuniaki

群馬大学は、伝統を活かし、地域と共に、知的な創造を通じて世界の最先端へとチャレンジし、21世紀を切り拓くことを目指しています。昭和24年に制定された徽章には上毛三山がデザインされています。上毛三山の中で大学キャンパスから一番近い赤城山は、広い裾野を持っています。群馬大学もこの赤城山のように広い知の基盤を形成し、その基盤の上にリージョナルからグローバルまで、様々なレベルで知の峰を創り、世の中に発信していく大学になって行きたいと思っています。

群馬大学の歴史をさかのぼると、明治6年に開設された小学校教員伝習所にたどりつきます。江戸幕府の封建的社会から明治の近代化社会への大きな時代の転換期に当たり、列強諸国を相手に国を興していくうえで、教育の重要性を何よりも考えた先人の心意気が感じられます。現在の教育学部は、この伝統を引き継いだものです。大正4年には、工学部の前身である桐生高等染織学校が設置され、近代日本の発展を担った絹産業を支えました。医学部は昭和18年に前橋医学専門学校として開校し、附属病院とともに医学の発展と地域の医療を担ってきました。附置研究所である生体調節研究所は、この医学部の附属内分泌研究施設にその源をたどることができます。平成の時代に入ると、新しい情報化時代に対応するものとして社会情報学部が平成5年に設置されました。このように、群馬大学は、明治、大正、昭和、平成という近代日本それぞれの時代の要請に応える形で生まれ、変革しながら高等教育機関としての役割を果たしてきました。

現在の群馬大学は、このような歴史の上に培われた伝統を基盤に、時代の要請に応じて新たな展開を図っています。

大学病院として我が国で初めて設置された重粒子線治療施設は、平成22年3月より稼働し、同年6月からは先進医療の一つとしてがん治療を本格的に開始し、平成23年度末までに300名以上の患者さんを治療しています。この画期的な治療装置の運営は、全国の放射線治療医の約1割を輩出している本学医学部の人的な基盤が支えています。さらに、医学系研究科を中心とした、「重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラム」が文部科学省の博士課程教育リーディングプログラムに選定され、医療イノベーションの人材養成に邁進しています。保健学研究科では、世界レベルでのチーム医療教育研究プログラムを展開し、これからの医療の形であるチーム医療を担う先進的な人材養成を行っています。生体調節研究所は、内分泌・代謝学共同利用・共同研究拠点として、全国の研究者コミュニティと連携しながらグローバルCOEプログラム「生体調節シグナルの統合的研究」の成果をさらに発展させています。

工学研究科では、低炭素社会の実現に向けた新素材の開発や、大災害による被害を最小化するための防災研究をはじめ、様々な分野において最先端の技術開発や社会貢献プロジェクトに邁進しています。東日本大震災では、本学の地道な活動が小・中学校の児童・生徒の命を救った「釜石の奇跡」へとつながり、災害対策におけるパラダイムシフトを起こすほどの大きなインパクトがありました。

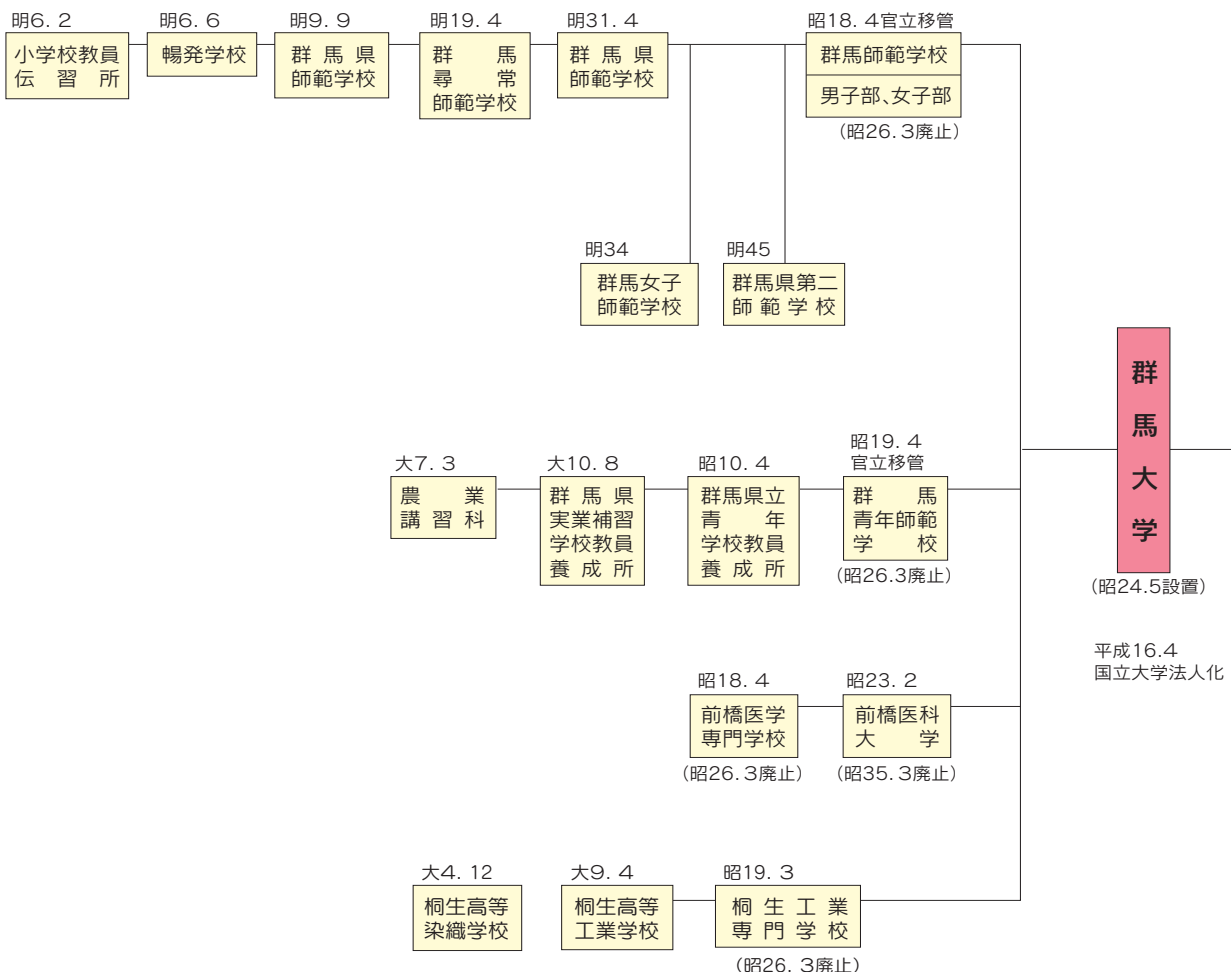
長い伝統をもつ教育学部においては、平成20年に設置された教職大学院をはじめ、国内最高レベルの充実度を誇る教育実習プログラムにより、教員の養成や資質向上に努めています。社会情報学部では、今後、ますます本格化する高度情報社会において、より広い視野から問題を把握し、それを解決する能力を身に付け、幅広い分野で活躍できる人材の育成を行っています。

このように、群馬大学は国立大学として広く地域に根ざすとともに、育んできたものを時代の要請に合わせて高い峰へと育てることにより、グローバル化時代におけるイノベーションへとつながる研究成果の発信や、優れた人材を育成することを最大の使命としています。そして常に社会から信頼される大学であるために、全力を尽くしていきます。

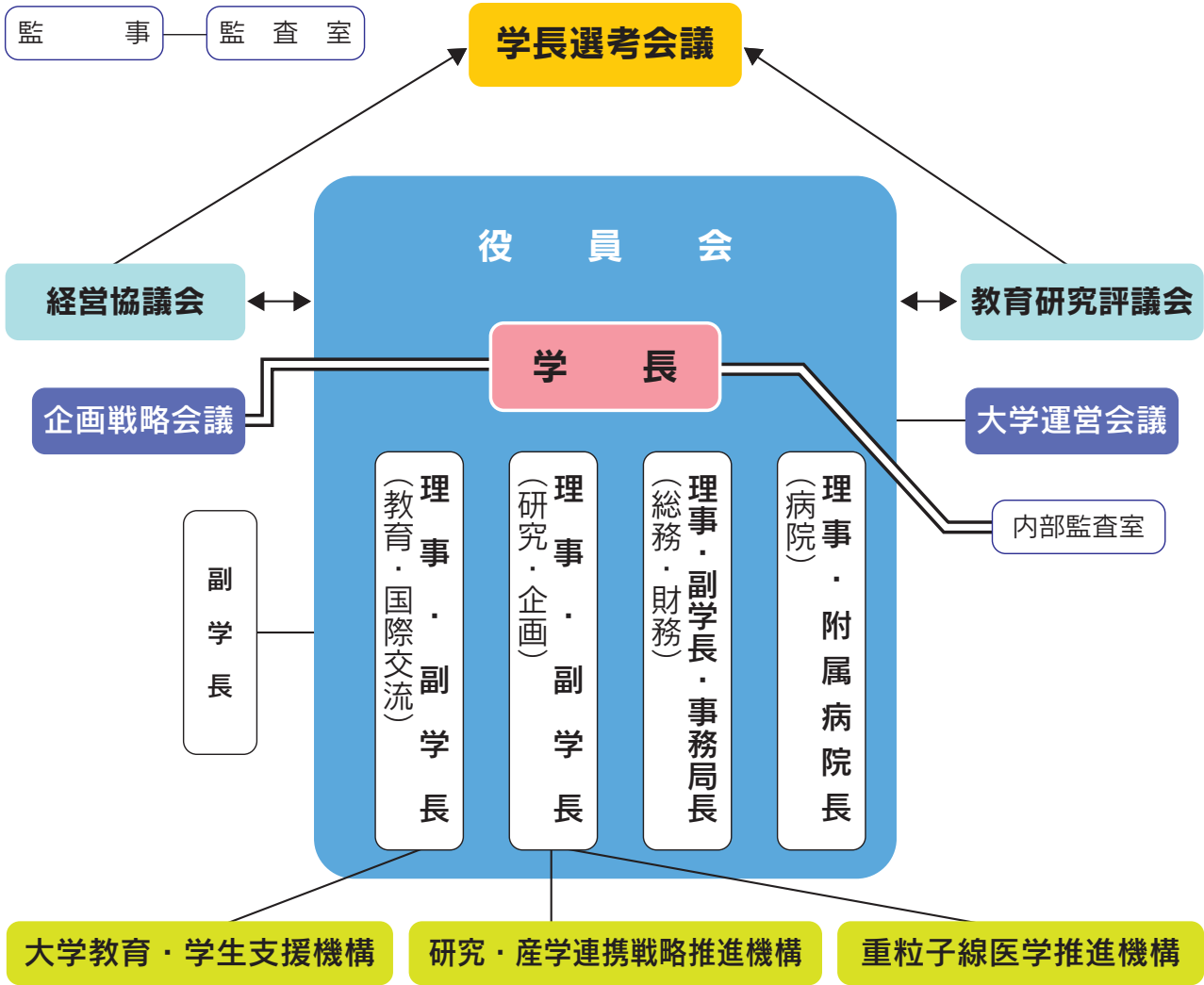
歴代学長

代数	氏名	在任期間
初代	西成甫	昭和24. 5.31 ~ 昭和36. 6.20
(事務取扱)	相葉伸	// 36. 6.21 ~ // 36. 7.13
第2代	長谷川秀治	// 36. 7.14 ~ // 42. 7.13
(事務取扱)	柴田勝博	// 42. 7.14 ~ // 42. 8.31
第3代	秋月康夫	// 42. 9. 1 ~ // 46. 8.31
(事務取扱)	町田周郎	// 46. 9. 1 ~ // 46.12.15
第4代	石原恵三	// 46.12.16 ~ // 50.12.15
第5代	畑敏雄	// 50.12.16 ~ // 56.12.15
第6代	小野周	// 56.12.16 ~ // 60.12.15
第7代	前川正	// 60.12.16 ~ 平成 3.12.15
第8代	石川英一	平成 3.12.16 ~ // 9.12.15
第9代	赤岩英夫	// 9.12.16 ~ // 15.12.15
第10代	鈴木守	// 15.12.16 ~ // 16. 3.31
(国立大学法人 群馬大学長)	鈴木守	// 16. 4. 1 ~ // 21. 3.31
第11代	高田邦昭	// 21. 4. 1 ~ 現在

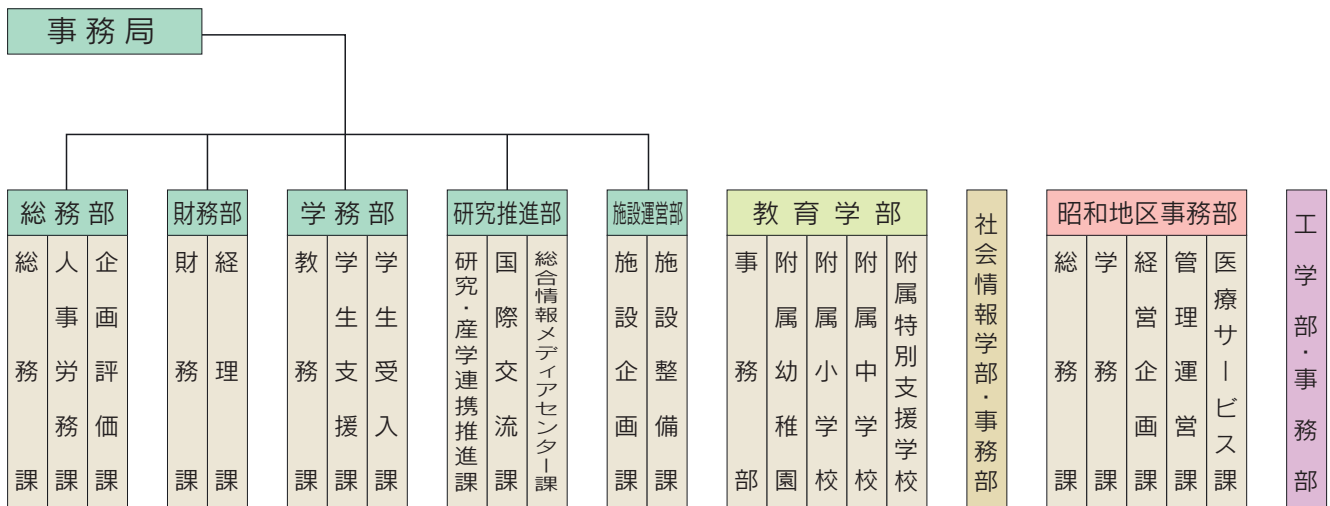
沿革



管理運営組織

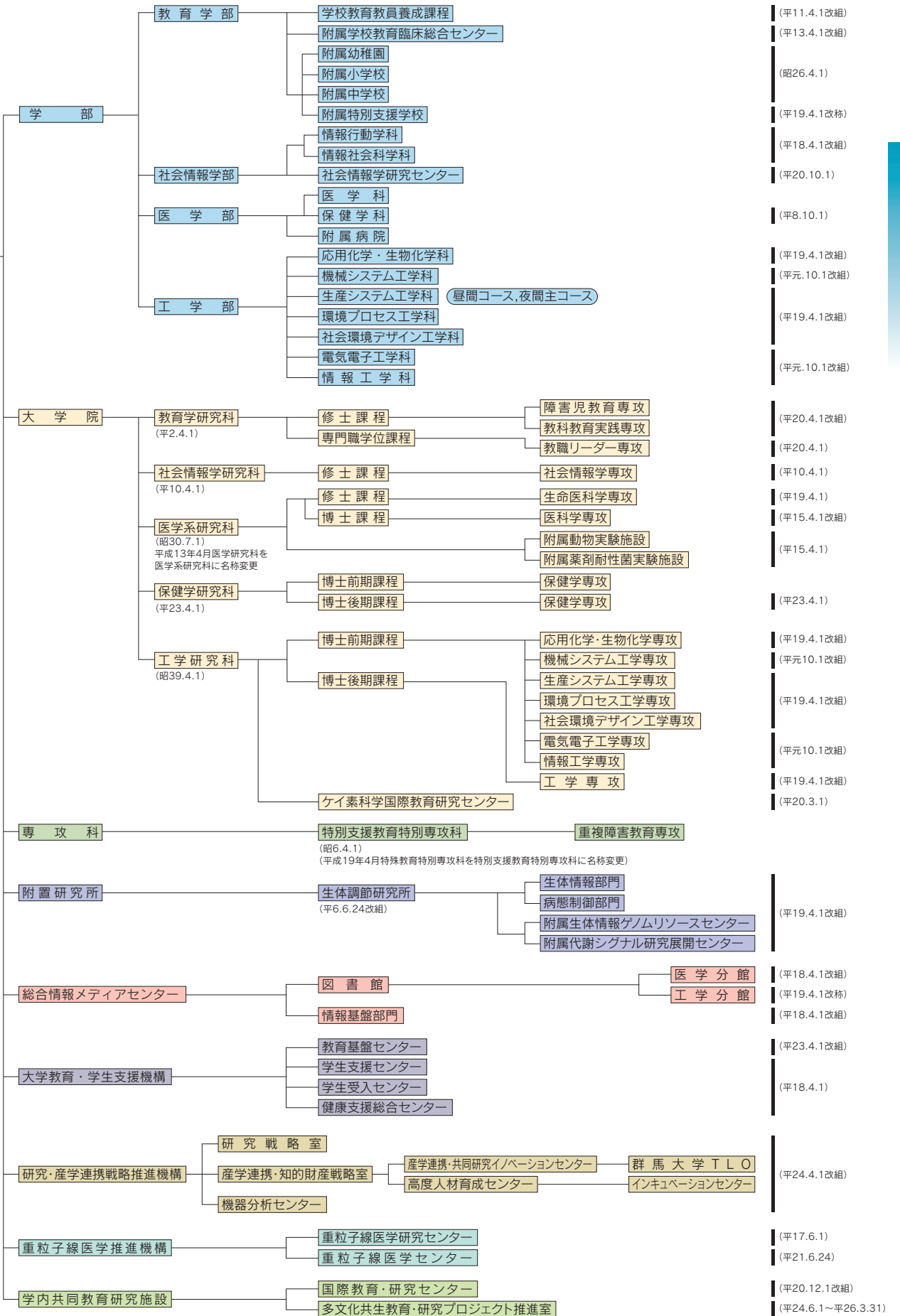


事務組織



教育・研究組織

群馬大学
(昭24.5設置)
平成16.4国立大学法人化



組織・運営

役員及び主な役職者等

役員・副学長・顧問・特任教授

平成24年4月1日現在

役員	
学長	高田 邦昭
理事（教育・国際交流担当）	石川 治
理事（研究・企画担当）	平塚 浩士
理事（総務・財務担当）・事務局長	井手 孝行
理事（病院担当）・附属病院長	野島 美久
監事	鈴木 宏
監事（非常勤）	森田 均

副学長	
石川 治	平塚 浩士
井手 孝行	小池 啓一
竹内 利行	

顧問（非常勤）	
元群馬県商工会議所連合会会長	金子 才十郎
元群馬大学長（第9代）	赤岩 英夫
前群馬大学長（第10代）	鈴木 守

特任教授（非常勤）	
竹内 利行	

経営協議会・教育研究評議会

平成24年4月1日現在

経営協議会	
1. 議長	高田 邦昭 学長
2. 学外委員	石堂 正信 (株)JR東日本リテールネット常務取締役財務部長
	郷 通子 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構理事
	茂原 璋男 群馬県副知事
	曾我 孝之 前橋商工会議所会頭
	高橋 康三 (株)上毛新聞社取締役会長
	林 正和 東京証券取引所自主規制法人理事長
	福水 健文 日伯エタノール(株)代表取締役社長
	四方 浩 (株)群馬銀行代表取締役会長
3. 学内委員	石川 治 理事（教育・国際交流担当）・副学長
	平塚 浩士 理事（研究・企画担当）・副学長
	井手 孝行 理事（総務・財務担当）・副学長・事務局長
	野島 美久 理事（病院担当）・附属病院長
	竹内 利行 特任教授・副学長（非常勤）

教育研究評議会	
1. 議長	高田 邦昭 学長
2. 評議員	石川 治 理事（教育・国際交流担当）・副学長
	平塚 浩士 理事（研究・企画担当）・副学長
	井手 孝行 理事（総務・財務担当）・副学長・事務局長
	野島 美久 理事（病院担当）・附属病院長
	豊泉 周治 教育学部長
	富山 慶典 社会情報学部長
	和泉 孝志 大学院医学系研究科長・医学部長
	渡邊 秀臣 大学院保健学研究科長
	板橋 英之 大学院工学研究科長・工学部長
	岡島 史和 生体調節研究所長
	末松 美知子 総合情報メディアセンター長
	齋藤 周 教育学部教授
	落合 延高 社会情報学部教授
	峯岸 敬 大学院医学系研究科教授
	村上 博和 大学院保健学研究科教授
	花泉 修 大学院工学研究科教授
	泉 哲郎 生体調節研究所教授

監査室長（心得）（非常勤）	桐 生 賢 一	国際教育・研究センター	
事務局		センター長	土 橋 敏 明
事務局長・副学長	井 手 孝 行	多文化共生教育・研究プロジェクト推進室	
総務部長	堀 川 光 久	室長	石 川 治
総務課長	池 野 浩 幸	教育学部	
人事労務課長	木 村 義 徳	学部長	豊 泉 周 治
企画評価課長	道 見 明 彦	事務長	岡 田 勉
財務部長	堀 内 賢 司	附属学校教育臨床総合センター長	黒 羽 正 見
財務課長	山 腰 俊 昭	附属幼稚園長	藤 本 宗 利
経理課長	土 屋 勝 正	附属小学校長	江 森 英 世
学務部長	池 田 三 喜 男	附属中学校長	三 田 純 義
教務課長	木 林 透	附属特別支援学校長	西 谷 泉
学生支援課長	戸 澤 勲	社会情報学部	
学生受入課長	高 木 学	学部長	富 山 慶 典
研究推進部長	金 城 孝 夫	事務長	成 瀬 豊
研究・産学連携推進課長	菊 地 昌 弘	医学部	
国際交流課長	亀 井 武 志	学部長	和 泉 孝 志
総合情報メディアセンター課長	土 師 守	大学院医学系研究科	
施設運営部長	齊 藤 文 男	研究科長	和 泉 孝 志
施設企画課長	佐 藤 孝 利	附属動物実験施設長	柳 川 右 千 夫
施設整備課長	清 水 仁	附属薬剤耐性菌実験施設長	富 田 治 芳
総合情報メディアセンター		大学院保健学研究科	
センター長（図書館長）	末 松 美 知 子	研究科長	渡 邊 秀 臣
大学教育・学生支援機構		医学部附属病院	
機構長	石 川 治	病院長	野 島 美 久
教育基盤センター長	石 川 治	昭和地区事務部	
学生支援センター長	石 川 治	事務部長	小 玉 功
学生受入センター長	石 川 治	事務部次長（心得）	（兼）岩 田 彦 一
健康支援総合センター長	石 川 治	総務課長	福 田 美 則
研究・産学連携戦略推進機構		学務課長	今 井 宏 一
機構長	平 塚 浩 士	経営企画課長	岩 田 彦 一
研究戦略室長	平 塚 浩 士	管理運営課長	岡 野 勉
産学連携・知的財産戦略室長	平 塚 浩 士	医療サービス課長	小 出 利 一
産学連携・共同研究イノベーションセンター長	篠 塚 和 夫	工学部	
群馬大学TLO長（非常勤）	大 澤 隆 男	学部長	板 橋 英 之
高度人材育成センター長	保 坂 純 男	事務長	佐 藤 剛 史
インキュベーションセンター長	篠 塚 和 夫	大学院工学研究科	
機器分析センター長	窪 田 健 二	研究科長	板 橋 英 之
重粒子線医学推進機構		生体調節研究所	
機構長	平 塚 浩 士	所長	岡 島 史 和
重粒子線医学研究センター長	中 野 隆 史	附属生体情報ゲノムリソースセンター長	平 井 宏 和
重粒子線医学センター長	野 島 美 久	附属代謝シグナル研究展開センター長	北 村 忠 弘

教育学部

(荒牧地区)

教育学部は、新しい時代の学校教育を担う教員、中でも小学校・中学校・特別支援学校の教員を養成することを主な目的としている。学校教育に対する多様な要求に対し、柔軟かつ効果的にこたえられる高度な専門的知識・技術と豊かな人間性を身に付けた実践的指導力のある教育者の養成を目指している。

教育学部

課 程	入学定員	系	専 攻	講 座
学校教育教員養成課程	220	文化・社会	国語、社会、英語	国語教育、社会科教育、英語教育
		自然・情報	数学、理科、技術	数学教育、理科教育、技術教育
		芸術・表現	音楽、美術	音楽教育、美術教育
		生活・健康	家政、保健体育	家政教育、保健体育
		教育人間科学	教育、教育心理、障害児教育	学校教育、障害児教育

教育学研究科（修士課程）

専 攻	入学定員	専 修
障害児教育専攻	3	障害児教育
教科教育実践専攻	20	国語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、音楽教育、美術教育、保健体育、技術教育、家政教育、英語教育
計	23	

教育学研究科（専門職学位課程）

専 攻	入学定員	コ ー ス
教職リ－ダ－専攻	16	児童生徒支援、学校運営

特別支援教育特別専攻科

専攻	入学定員	コース
重複障害教育専攻	15	一種免許状取得、専修免許状取得

附属研究施設

名称	内容等
学校教育臨床総合センター	センターでは3つの部門で、実践的教育研究を進めている。教育実習・実践開発部門では、教育実習の改善研究や、授業方法・教育内容の開発研究を行っている。また、教育を工学的に考えるという立場から教育実践の改善に取り組んでいる。国際理解教育部門では、生まれ育った文化や社会が異なる子どもが混在する学校が直面している様々な問題との接点を求め、検証を行っている。教育臨床心理部門では、心理療法の実践と教育現場から現れる心身問題へ対応するためのケア・ネットワーク作りを行っている。

教育学部附属学校

幼児及び児童・生徒に対し、幼児教育、義務教育として行われる普通教育及びそれに準ずる教育等を施すとともに、それぞれに関する実践的研究や先導的研究を学部と協力して推進し地域の教育の充実・発展に寄与することや、教育学部学生の教育実習を実施することを目的としている。

平成24年5月1日現在

区分	総定員	現員								
		1年生/ 3歳児	2年生/ 4歳児	3年生/ 5歳児	4年生	5年生	6年生	計		
教育学部	附属幼稚園	140	28	56	54				138	
	附属小学校	825	100	114	111	150	145	148	768	
	附属中学校	480	160	160	158				478	
	附属特別支援学校	小学部	18	3	3	3	3	4	2	18
		中学部	18	6	5	8				19
高等部		24	7	8	5				20	
計	1,505	304	346	339	153	149	150	1,441		



教育実習



授業風景



体育大会（附属中学校）

社会情報学部 (荒牧地区)

高度情報社会の到来は、仕事や勉強の仕方から、政治・経済のあり方、消費・レジャー行動に至るまで、社会のあらゆる分野に大きな変化を引き起こしている。この変化を多角的・総合的に把握し、そこに発生する各種の問題を解決するためには、細分化されている既存の学問では対応しきれない。本学部では、情報科学、人文科学、社会科学、環境科学といったさまざまな分野の専門家が互いの研究成果を融合させることで、高度情報社会の諸問題の解決策を探究している。

社会情報学部

学 科	コース・科目群	入学定員	3年次編入学定員	講 座
情 報 行 動 学 科	情報メディアコース	50	10	情報行動
	情報システムコース			
情 報 社 会 科 学 科	社会・政治科目群	50	10	情報社会科学
	法 律 科 目 群			
	経 済 科 目 群			
	経 営 科 目 群			
	環 境 科 学 科 目 群			

社会情報学研究科（修士課程）

専 攻	教育・研究領域（小区分）		入学定員	
社会情報学専攻	社会情報基盤領域	経 済 ・ 経 営 領 域	14	
				経 済 ・ 産 業
				経 営 ・ 環 境
		地 域 ・ 行 政 領 域		地 域 ・ コ ミ ュ ニ テ ィ
				行 政 ・ 法 律
		文 化 ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 領 域		文 化 ・ 歴 史
		コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン		

社会情報学研究センター

設立趣旨・目的	主な活動内容
<p>社会情報学部設立15周年にあたる平成20年10月に発足した、学部附属研究センターである。高度情報社会が内包する諸課題の解決をめざす学際的学問である「社会情報学」の研究拠点として、国内外の研究者との共同研究及び企業・自治体等との共同調査研究を行い、さらなる社会情報学の探究とその研究成果を広く社会に情報発信を行うことにより、地域社会に寄与することを目的としている。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 国内外の研究者の招へいと本学部教員との共同研究の実施 2) 研究成果を基にしたシンポジウム・講演会・セミナー等の開催 3) 学部内の諸社会情報学研究のコーディネート及び推進支援 4) 企業・自治体等との共同調査研究の受託 5) 学部の研究論集の発行 6) 学部・大学院の研究成果の出版・電子情報化及びその広報 7) 各種外部資金及び競争的資金の獲得 8) その他、社会情報学の発展や研究成果を活用した社会貢献に資する活動



授業風景（少人数のゼミナール）



社会情報学シンポジウム



学生が制作・編集した「学部紹介パンフレット」

医学部

(昭和地区)

医学科では、人体、生命の神秘を追求し、疾病の本態を解明し、それを克服するための方策を探究するとともに、優れた医師、真摯な医学研究者を養成することを目的としている。ここでの教育目標は、学生が将来、医師又は研究者となるために、医学の基本的知識を理解し、医療及び医学研究に必要な基本的技術を修得し、さらに医師として患者に接する真摯な態度と生涯にわたる自己学習の習慣を体得することにある。保健学科においては、人間として、保健医療の専門職として、確固たる倫理観と豊かな人間性を持ち、その社会的使命を果たすことのできる人材の育成を図るとともに、総合的で先進的な教育・研究を展開することを目的とする。

医学部

学 科	入学定員	学 科 目
医 学 科	108 [15]	医倫理学 生命医学 応用医学チュートリアル 卒前臨床実習（クリニカル・クラークシップ） 実践臨床病態学

学 科	専 攻	入学定員	学 科 目
保 健 学 科	看 護 学 専 攻	80	基礎看護学、臨床看護学、母子看護学、地域看護学
	検 査 技 術 科 学 専 攻	40	基礎検査学、応用検査学
	理 学 療 法 学 専 攻	20	基礎理学療法学、総合理学療法学
	作 業 療 法 学 専 攻	20	基礎作業療法学、心身障害作業療法学
			医療基礎学
	計	160 (10)	

注：[] 内の数字は2年次編入学定員を表し、外数である。() 内の数字は3年次編入学定員を表し、外数である。

医学系研究科（修士課程）

専 攻	入学定員
修士課程 生命医科学専攻	15



基礎棟



学習室（石井ホール）



専攻別説明会（検査）

医学系研究科（博士課程）

専攻		入学定員	講座	専攻分野
博士課程	医科学専攻	57	脳神経病態制御学	神経生理学、病態病理学、麻酔神経科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、脳神経内科学、脳神経外科学
			脳神経発達統御学	神経薬理学、遺伝発達行動学、分子細胞生物学、神経精神医学
			細胞形態・情報統御学（協力講座）	代謝シグナル解析、細胞構造
			器官代謝制御学	生体構造学、病態制御内科学、泌尿器科学、産科婦人科学、臨床薬理学
			器官機能制御学	生化学、機能形態学、臨床検査医学、整形外科学、応用生理学
			遺伝情報・発現学（協力講座）	分泌制御、遺伝生化学、ゲノム科学リソース、核内情報制御
			生体機能解析学（連携講座）	生体機能解析学
			病態循環再生学	臓器病態内科学、臓器病態外科学、臓器病態救急学、眼科学
			病態腫瘍制御学	病態腫瘍薬理学、病理診断学、病態総合外科学、腫瘍放射線学、放射線診断核医学、顎口腔科学、*バイオイメージング情報解析学（富士フイルムRIファーマ）、*分子画像学
			重粒子線医学（協力講座）	重粒子線医学物理・生物学、重粒子線臨床医学、*重粒子線医学（キョーリン）
			細胞機能解析学（協力講座）	細胞調節、遺伝子情報
			生体防御機構学	分子予防医学、細菌学、国際寄生虫病学、法医学 生体統御内科学、小児科学、皮膚科学
社会環境医療学	公衆衛生学、医学哲学・倫理学、情報医療学（協力分野）、総合医療学、リハビリテーション医学（協力分野）			
生体情報学（協力講座）	シグナル伝達、バイオシグナル、分子細胞制御			

*印は、寄附講座

保健学研究科（博士課程）

専攻		入学定員	ユニット又は領域
博士前期課程（修士）	保健学専攻	50	基礎保健学ユニット、応用保健学ユニット、地域・国際保健学ユニット
博士後期課程（博士）		10	看護学領域、生体情報検査科学領域、リハビリテーション学領域
計		60	

附属研究施設

名称	内容
医学系研究科附属動物実験施設	実験動物を用いた研究教育の材料や環境を安定的に提供し、医生物学研究の基盤施設として学内に広く貢献している。また、医生物学の研究教育における動物実験倫理、動物福祉の徹底にも努めている。
医学系研究科附属薬剤耐性菌実験施設	本邦で唯一の薬剤耐性菌に関する専門的研究施設である。社会的に大きな問題になっている細菌が薬剤に対して耐性を獲得するしくみを遺伝学的、分子生物学的に研究している。

医学部附属病院

(昭和地区)

診療を通じて医学の教育及び研究の向上を図るものである。

病院には、教育と診療と研究の3つの重要な責務がある。教育については、医学部等の要請による臨床実習及び卒業後の初期教育が主体であり、診療については、保健医療機関として地域医療に貢献するとともに、一般医療機関では行い難い高度医療を提供する医療機関として活動し、研究については、先進医療の開発を中心とした臨床研究を行うことが、それぞれ主体となっている。



診療科及び患者数

診療科	区分	平成23年度患者数(人)	
		入院患者	外来患者
内科系	循環器内科、呼吸器・アレルギー内科、消化器内科、肝臓・代謝内科、内分泌・糖尿病内科、腎臓・リウマチ内科、血液内科、神経内科	50,214	112,386
外科系	循環器外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、移植外科、泌尿器科、歯科口腔外科	59,761	101,248
感覚器・運動機能系	整形外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科	54,843	134,316
脳神経・精神・麻酔系	精神科神経科、麻酔科蘇生科、脳神経外科	23,676	39,348
小児・女性系	小児科、小児外科、産科婦人科	26,765	42,813
放射線系	放射線科、核医学科	10,184	30,531
計		225,443	460,642

※病床数：725床（平成24年5月1日現在）

工学部

(桐生地区・太田地区)

今日の科学技術社会にあつて、最先端の研究成果を生み出すため、高度の基礎研究の推進と企業の先端技術との有機的結合を図っている。ここでの教育目標は、工学の基礎的知識・技術と幅広い社会・文化的教養等とを身に付けるとともに、単に専門分野の知識・技術の修得にとどまらず、将来、直面する様々な問題に工学的手法を用いて、多角的見方と的確な判断能力を有する技術者・研究者を養成することを目的としている。

工学部

学 科	入学定員	分 野
応用化学・生物化学科	170	応用分子化学、機能材料化学、機能生物科学
機械システム工学科	70	エネルギーシステム工学、マテリアルシステム工学、メカトロニクス工学
生産システム工学科	40	材料工学、機械工学、電気電子工学、情報工学
昼間コース 環境プロセス工学科	40	エネルギーシステム、バイオプロセス、クリーン化技術、マテリアル創製
社会環境デザイン工学科	40	コンクリート工学、地盤工学、環境工学、流域環境学、災害社会工学
電気電子工学科	70	電子デバイスシステム、計測制御エネルギー、情報通信システム
情報工学科	50	情報数理工学、計算機工学、知識情報工学
夜間主コース 【太田地区】 生産システム工学科	30	生産システム工学
計	510(30)	

注：() 内の数字は3年次編入学定員を表し、外数である。3年次編入学の定員は学科共通である。



キャンパス内風景



実験風景 (応用化学・生物化学科)



実験風景 (環境プロセス工学科)

工学研究科（博士課程）

専攻		入学定員	分野又は領域
博士前期課程 （修士）	応用化学・生物化学専攻	106	応用分子化学、機能材料化学、機能生物科学、*環境保全化学、 *標準・先端計測化学、*先端機能材料、*先端バイオテクノロジー、 *ケイ素材料化学
	機械システム工学専攻	44	エネルギーシステム工学、マテリアルシステム工学、 メカトロニクス工学、*生産開発支援工学
	生産システム工学専攻	30	材料工学、機械工学、電気電子工学、情報工学、*デバイス開発工学
	環境プロセス工学専攻	22	エネルギーシステム、バイオプロセス、クリーン化技術、 マテリアル創製、日清紡アドバンストカーボン工学（寄附講座）
	社会環境デザイン工学専攻	22	コンクリート工学、地盤工学、環境工学、流域環境学、災害社会工学、 *エネルギー環境工学
	電気電子工学専攻	44	電子デバイスシステム、計測制御エネルギー、情報通信システム、 *マイクロエレクトロニクス工学、*アナログ集積回路工学
	情報工学専攻	32	情報数理工学、計算機工学、知識情報工学
博士後期課程 （博士）	工学専攻	39	物質創製工学領域 *環境保全化学、*標準・先端計測化学、*先端機能材料、 *先端バイオテクノロジー、*ケイ素材料化学 先端生産システム工学領域 *デバイス開発工学、*生産開発支援工学 環境創生工学領域 *エネルギー環境工学 日清紡アドバンストカーボン工学（寄附講座） 電子情報工学領域 *マイクロエレクトロニクス工学、*アナログ集積回路工学
計		339	

*印は、連携大学院方式

ケイ素科学国際教育研究センター

ケイ素科学に関する大学院教育システムの構築と人材育成、ケイ素科学の基礎研究及び応用研究の発展、国内外の研究者との協力体制の強化とグローバル化の推進を目的としている。

生体調節研究所 (昭和地区)

本研究所では、糖尿病原因遺伝子の解明、膵臓のインスリン分泌細胞の分化・再生、インスリン分泌の分子機構の解明など、糖尿病領域の研究が進展している。また血管生物学などの基礎研究、さらに細胞間や細胞内のシグナル伝達機構の解明という基礎的な分野でも大きな成果を上げている。これらの研究によって、生体代謝調節異常に基づく生活習慣病の発症予防・病態の制御を目指す。

研究部門

研究部門	分野
生体情報部門	遺伝子情報、細胞構造、シグナル伝達、核内情報制御
病態制御部門	分泌制御、細胞調節、バイオシグナル、遺伝生化学、分子細胞制御

附属研究施設

附属研究施設	分野
生体情報ゲノムリソースセンター	疾患ゲノム研究、ゲノム科学リソース
代謝シグナル研究展開センター	代謝シグナル解析、トランスレーショナルリサーチ



生体調節研究所



生体情報ゲノムリソースセンター



代謝シグナル研究展開センター

総合情報メディアセンター

総合情報メディアセンターは、本学の教育研究支援を目的とした、学術情報の収集と情報発信ならびに基盤の整備運用等のサービスを行う部局です。資料の整備、ネットワーク及び演習用端末の管理、電子ジャーナルの契約だけでなく、学生のための「学びの場」の提供に力を入れています。また、地域の学術情報センターとして、学外者利用などの地域貢献も行っています。加えて、情報化統括責任者(CIO)の下に組織された「情報化推進室」と緊密に連携し、本学の情報化と情報セキュリティ体制の強化を一元的に推進しています。

図書館

図書館は、本館（荒牧地区）、医学分館（昭和地区）及び工学分館（桐生地区）で構成されています。

3館が連携・協力しながら、本学の学生・教職員及び学外利用者へのサービスを行っており、平成23年度には、群馬大学学術情報リポジトリ(GAIR)を発展的に更新し「群馬県地域共同リポジトリ(AKAGI)」を構築するなど電子図書館としての機能強化及び地域貢献に努めています。

蔵書数（平成24年5月1日現在）（単位：冊）

区分	本館	医学分館	工学分館	計
和書	276,748	75,209	92,950	444,907
洋書	53,980	68,359	65,034	187,373
計	330,728	143,568	157,984	632,280



本館（荒牧地区）

情報基盤部門・事務情報部門

情報基盤部門は群馬大学学術情報ネットワーク(GUNet)、教育研究用計算機システムの管理運用を行っています。

GUNetは荒牧・昭和・桐生地区を1Gbps、太田地区と附属学校園を100Mbpsで接続し、荒牧地区から1GbpsでInternetに接続されています。

情報基盤部門荒牧センターは学術情報ネットワークの接続拠点(SINETノード)となっており、県内の大学のネットワーク拠点としての役割をも果たしています。

事務情報部門は、事務情報ネットワーク、図書館情報システム、事務用電子計算機システムの管理運用を行っています。情報基盤部門と連携し、事務の効率化・情報化を推進しています。

■ 全学ソフトウェアライセンス（ソフトウェアの無償配布）

学生、教職員が全学的に使用するソフトウェアの標準化と、その整備に係る経費の節減、並びに、ソフトウェアの不正コピーの防止を組織的に取り組むことでのコンプライアンス対策等を目的として、マイクロソフト社との間で「マイクロソフト包括ライセンス契約」を締結しています。当該契約により本学の教職員及び学生は、個人のパソコンにも無償でWindowsやOfficeの最新バージョンを利用することができます。

■ 無線LANシステム

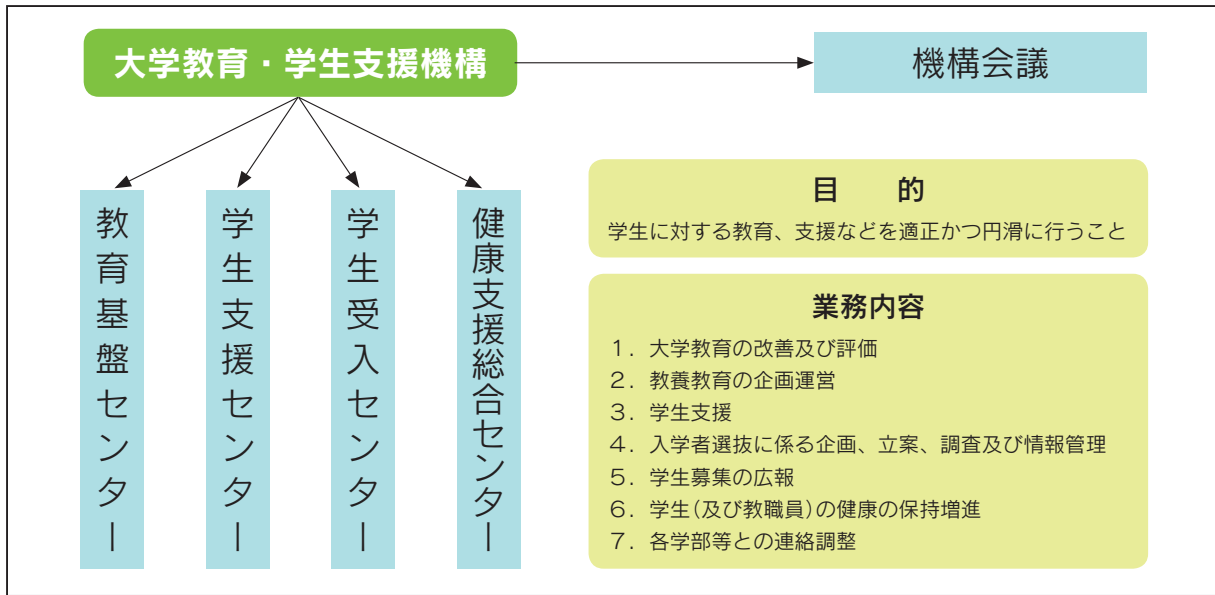
荒牧地区、昭和地区及び桐生・太田地区の建物には右のステッカーが貼ってある場所があります。この場所では、自分のPCやPDAから無線LANによりインターネットを利用することができます。



※総合情報メディアセンターでは、上記に加え様々なサービスを提供しています。サービスの詳細については、ホームページをご覧ください。

大学教育・学生支援機構

大学教育・学生支援機構は、教育基盤センター、学生支援センター、学生受入センター及び健康支援総合センターからなる。



教育基盤センター

目的
全学に共通する大学教育の基盤を整備するとともに、教養教育を円滑に運営すること

業務内容

1. 全学共通の教育基盤の整備
2. 大学教育の教育内容及び教育方法の改善
3. 教養教育の企画及び運営
4. 大学教育の評価
5. その他
 - ① 高大連携、大学間連携等の企画
 - ② 各種教育プロジェクト(GP)の立案

学生支援センター

目的
学生の生活及び就職活動に対する支援並びに修学に係る相談等を適切かつ円滑に行うこと

業務内容

1. 学生生活の支援
2. 学生相談の企画、立案及び実施
3. 学生の就職指導の企画、立案及び実施

学生受入センター

目的
学生募集に係る広報の推進並びに入学者選抜の改善に係る企画、立案、調査及び研究並びに入学者選抜に係る情報の適正な管理を行うこと

業務内容

1. 学生募集に係る広報活動
2. 入学者選抜方法の改善
3. 入学者選抜に係る企画、立案、調査及び研究
4. 入学者選抜に係る情報の保護、管理及び開示
5. 入学者選抜に係るリスクマネジメント
6. 大学入試センター試験

健康支援総合センター

目的
学生(及び教職員)の心身の健康の保持増進を図ること

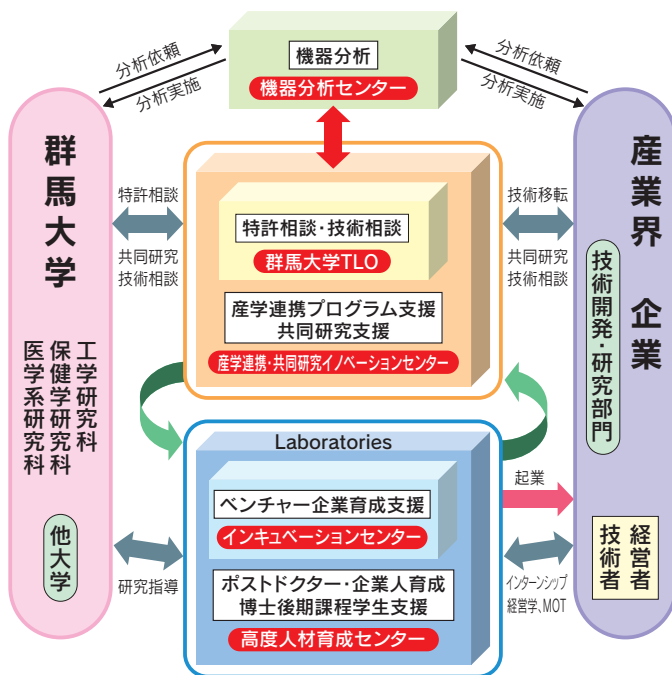
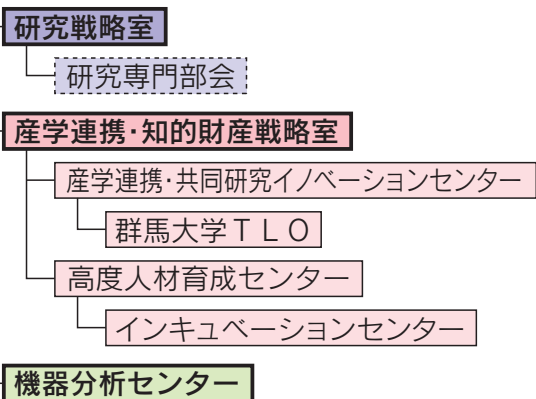
業務内容

1. 健康診断の企画、立案及び実施
2. 健康診断の事後処理等に係る指導助言
3. 身体的及び精神的(カウンセリングを含む)な健康相談
4. 応急処置
5. 健康に係る調査及び研究
6. 伝染病の予防及び環境衛生に係る指導助言

研究・産学連携戦略推進機構

本機構は、研究戦略室、産学連携・知的財産戦略室及び機器分析センターから組織されており、本学の基本理念に基づき、優れた研究成果を生み出すための体制を強化し、知的財産の管理運用などを円滑に行うとともに産学官連携活動を推進し、もって本学における学術研究の一層の高度化とその成果を広く社会に還元することを目的としている。

研究・産学連携戦略推進機構



研究戦略室

学術研究に必要な研究戦略を策定し、先端研究及びプロジェクト型研究を推進させ、本学の研究成果を地域社会に広く還元すること。

産学連携・知的財産戦略室

民間企業等との共同研究等の推進並びに知的財産の創出、取得、管理及び戦略的な活用並びにポストドクター等のキャリア開発支援並びに起業家精神に富んだ人材養成並びに大学発ベンチャー企業の創出及び支援を通じて、産学官連携を積極的に推進し、本学の研究成果を社会に還元すること。

産学連携・共同研究イノベーションセンター

目的

大学と民間等外部の機関との研究協力を推進し、地域社会における研究開発に資するとともに、教育研究活動の活性化を図ること

業務内容

1. 民間機関等との共同研究及び受託研究
2. 機関等の技術者に対する技術教育の実施、協力及び援助
3. 学内の共同研究
4. 学生に対する実践的な技術教育及び研究指導
5. 社会における学術研究の交流
6. 知的財産

高度人材育成センター

目的

ポストドクター並びに学生のキャリア開発を支援するシステムを構築し、もって産業界において活躍できる実践的な人材を育成

業務内容

1. ポストドクター及び博士課程学生の実践的能力の開発
2. ポストドクターのインターンシップの実施
3. ポストドクター及び博士課程学生と企業等との交流及び連携
4. 教職員のキャリアパスに係る意識啓発
5. ポストドクター及び博士課程学生のキャリア開発プログラムの構築

群馬大学 TLO

目的

知的財産の創出、取得、管理及び活用を行い、本学の研究成果を地域社会に広く還元すること

業務内容

1. 知的財産の創出、取得、管理及び技術移転
2. 知的財産情報の発信
3. 首都圏北部地域における知的財産の技術移転支援

インキュベーションセンター

目的

研究成果及び人的資源等を活用した起業活動に必要な支援を行うこと

業務内容

1. 創造開発室の提供
2. 起業家に対する経営指導、技術指導、マーケティング指導、ビジネスプラン立案等の起業支援



インキュベーションセンター

機器分析センター

各種分析機器を集中管理し、学内外の者の共同利用に供するとともに、産学官連携の推進を図り、教育と研究開発の進展に資すること。主な業務として、①機器の管理運用、②機器による分析、測定及び解析、③分析技術の研究開発、情報収集及び情報提供、④利用者に対する講習及び技術指導を行っている。

重粒子線医学推進機構

重粒子線医学研究センター

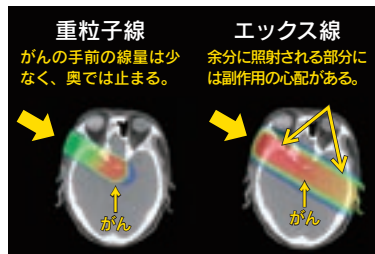
重粒子線加速器を導入し、基礎／臨床放射線医学研究ならびに重粒子線治療技術の高度化研究開発を推進するとともに、この分野を担う臨床腫瘍医、医学物理士、放射線生物学者等の養成を行うことを目的としている。

重粒子線医学センター

重粒子線がん治療の臨床試験を推進するとともに、重粒子線治療を中心としたがん診療の実践により、地域医療に貢献することを目的としている。



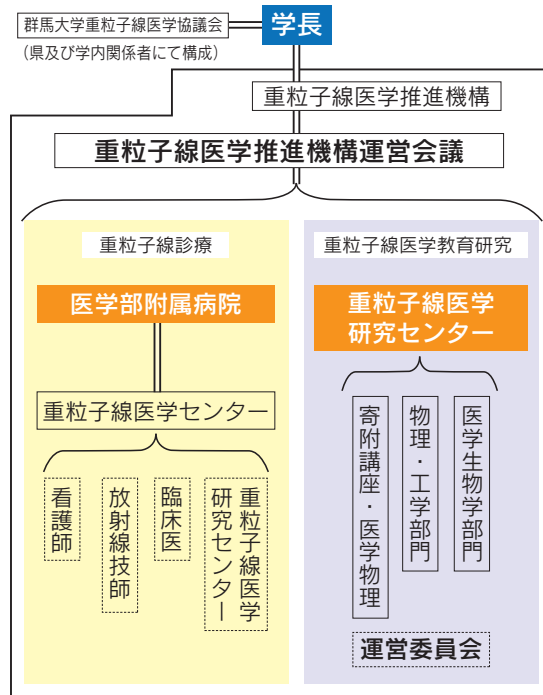
重粒子線照射施設外観



線量分布の比較（重粒子線とX線）

重粒子線医学にかかる研究、教育、診療活動を適正かつ円滑に推進することを目的としている。

重粒子線医療実行組織



大学・大学院等



治療室

加速された炭素イオンはここで患者さんに照射されます。重粒子線照射中に痛みはありません。



イオン源装置

ここで化学物質の中の炭素原子から炭素イオンが作られます。



シンクロトロン加速器

線形加速器から送られた炭素イオンはシンクロトロンの中を周回している間に光速の70%まで加速されます。



線形加速器

炭素イオンを主加速器であるシンクロトロンに送り込む前に予備的な加速を行います。

本重粒子線照射施設は、縦横約45m×65m、高さ約20mの建築物で、その中に、重粒子（炭素イオン）を最高で光の70%程度の速度まで加速する直径約20mのシンクロトロン加速器と3治療室ならびに付帯設備を持ちます。この治療装置は、重粒子線治療の普及を目指して小型化された最新の装置であり、国際的な注目を集めています。

本学では、群馬県との共同事業として、平成18年度にこの施設の建設に着手し、平成22年3月に治療を開始しました。設置後の運営においては、県内医療機関と連携して、施設を効果的に活用し、群馬医療圏に高度な統合的がん医療体制を構築し、重粒子線照射施設を全国の諸地域に配置する場合の施設活用のモデルとなることを目指しています。

学内共同教育研究施設

国際教育・研究センター

施設等の名称	内 容 等
国際教育・研究センター	教育・研究両面での国際交流と留学生交流等を推進するため、国際交流協定の締結、国際交流に関するプロジェクトの推進をはじめ、外国人留学生のための日本語等の教育プログラムの実施、修学・生活に関する指導や相談を行う。また、学生の海外派遣等に関する助言及び支援、日本語・日本事情教育等関係領域の調査・研究を行うことを目的とする。



日本研究実践プログラム
「日本美術コース」陶芸



スプリングプログラム
茶道の授業

多文化共生教育・研究プロジェクト推進室

施設等の名称	内 容 等
多文化共生教育・研究プロジェクト推進室	日本人住民と同様に外国人住民を地域の社会活動や経済活動に参加する新たな人的資源ととらえ、その活用を実現する社会システムや新産業を創出する人材を育成することを目的とする。



多文化共生国際シンポジウム
国内外の最先端の取組にふれる



群馬県みなかみ町での
フィールドワーク
みなかみ町在住のスリランカ人へのインタビューの様子

共同研究拠点等

拠点等の名称（主たる担当部署等）	内 容 等
内分泌・代謝学共同研究拠点 （生体調節研究所）	<p>「共同利用・共同研究拠点」事業 メタボリック症候群など社会的に要請の高い内分泌・代謝疾患の共同研究課題を遂行し、創出基盤技術等を共同利用に供することを目的とする。</p> <p>共同研究として次の2つの研究課題を推進する。病因解析では、生活習慣病の感受性遺伝子群の探索等を行い、機能分析では、生活習慣病に関連したトランスレーショナルリサーチを行う。</p> <p>内分泌・代謝学における研究者コミュニティの学術活動に貢献する。</p>
アドバンストカーボン構造・機能相関解析研究拠点 （工学研究科） （機器分析センター）	<p>「低炭素社会構築に向けた研究基盤ネットワーク整備」事業 群馬大学のカーボン材料研究グループが有する、①炭素材料に関する研究開発とその技術的蓄積、②機能性ナノ材料であるナノシェルの開発力、③炭素材料の構造及び機能を解析する研究力、以上、3つの特徴をフルに活用することにより、サテライト拠点としてハブ拠点と連携して低炭素社会の構築を目指すとともに、ネットワーク構成メンバー以外の研究者にも研究設備と解析の手法を伝えることにより、機材及び知識の共有化を図る。</p>

主な教育研究補助金採択状況

事業名	名称	主たる担当部署等	採択年度	内容
大学病院人材養成機能強化事業（大学病院間の相互連携による優れた専門医等の養成）	関東・信州広域循環型専門医養成プログラム ～専門医育成と医師不足解消を目指して～	医学部 附属病院（主） <連携大学> 信州大学 獨協医科大学 日本大学 埼玉医科大学	平成20年度 ～24年度	群馬大学、信州大学、獨協医科大学、日本大学、埼玉医科大学と大学病院の関連施設が連携し、専門医育成と医師不足解消を目指す循環型高度医療人育成プラン。
地域再生人材創出拠点の形成	デジタルを活かすアナログナレッジ養成拠点	工学研究科	平成21年度 ～25年度	自然界とデジタル機器を繋ぐ差別化技術であるアナログ技術の技術横断的な知識と実践を修得し、魅力ある製品を発想できる技術者を県内の産学官が一丸となって養成する。
	「多文化共生推進士」養成ユニット	教育学部	平成21年度 ～25年度	地域や職場にある文化の現状を的確に把握し、効果的な課題解決の方法を企画し実践する多文化共生推進士の養成を県と一体となって行う。
理数学生応援プロジェクト	高大産連携による工学系フロンティアリーダー育成プログラム	工学部	平成21年度 ～24年度	将来、科学技術分野での活躍が期待される学生の能力を創発するための工学系フロンティアリーダーコース（FLC）を設置。従来の学力試験や推薦入試に加えて、理数系に特に優れた資質や意欲のある学生を入学させる理数学生特別選抜を高校教員と連携して実施。
テニュアトラック普及・定着事業	若手先端科学研究者の研究環境改革	医学系研究科 工学研究科	平成22年度 ～26年度	最先端の科学研究を自立的に遂行できる若手研究指導者を育成する。国際公募によって採用したテニュアトラック教員に、研究費と研究スペースを支援するなどし、任期終了後の高いテニュア獲得率を実現する。さらに、テニュアトラック制度の全学への拡大を目指す。
大学教育・学生支援推進事業 大学教育推進プログラム	総合的学士力の育成に向けたチーム医療教育	医学部	平成22年度 ～24年度	医学部における全人的医療を目指したチーム医療教育の改善を図り、チーム医療教育に関する国際的な活動に学生や若手教員を直接参加させて、医学部における総合的学士力の育成を図る。
ポストドクター・キャリア開発事業	ポストドクター支援体制の強化による実践的な人材育成	工学研究科	平成23年度 ～27年度	高度人材育成センターを設置し、ポストドクター及び博士課程（後期）学生のカリキュラム整備、企業へのキャリアパス構築、学部から大学院博士課程までの一貫した就職支援システムの確立、PI啓発と人事評価への反映を行い、さらにこれらの基盤となる組織整備を行う。
博士課程教育リーディングプログラム	重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラム	医学系研究科	平成23年度 ～29年度	重粒子線医学・生物学の基礎と重粒子線先端臨床研究並びに高度医療機器の開発・運用技術の両面を教育する医学・工学融合型のリーディングプログラム重粒子線医工連携コースを創設し、重粒子線治療をけん引する優れたリーダーの養成を目指す。
専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業	地域社会の要請に応えた高度専門看護師養成	保健学研究科	平成23年度 ～25年度	地域社会に対応した侵襲タスクとチームマインドを備えた専門的看護師を養成する大学院教育を行う。
大学病院における医師等の勤務環境の改善のための人員の雇用	群馬大学病院業務改善推進事業	医学部附属病院	平成24年度	大学病院への患者ニーズが高まっている状況の中で、その他の業務に追われている医師・看護師の負担軽減を推進するため、医療事務作業補助者を配置し、本来の業務に専念できる環境を整備し、医療の安全や質の向上を図る。
医学部・大学病院の教育研究活性化及び地域・へき地医療支援人材の確保事業	群馬大学医学部・大学病院の教育・研究活性化及び地域・へき地医療支援人材の確保	医学部附属病院	平成24年度	群馬県のへき地での医師不足解消のため、若手医師を雇用して、大学の教育・研究および地域医療推進研究部門が行うセミナー事業へ参画させながら、同へき地での診療を通して、医師不足解消に寄与する。

平成23年度地域貢献事業一覧

担当部局	学科等名	担当者	事業名
全学部	地域連携推進室外	平塚 浩士 理事	こども体験教室「群馬ちびっこ大学」
教育学部		小池 啓一 学部長	教育改革・群馬プロジェクト
教育学部	子ども総合サポートセンター	懸川 武史 センター長	子ども総合サポートセンターにおける地域貢献
社会情報学部	情報行動学科	森谷 健 教授	長野原町北軽井沢地区観光振興のための地域情報発信
医学系研究科 医学部附属病院 保健学研究科	麻酔神経科学 緩和医療委員会 リハビリテーション学	齋藤 繁 教授 渡邊 秀臣 教授	慢性痛患者と高齢者の転倒防止ならびに疼痛緩和リハビリテーション促進事業
医学系研究科 保健学研究科	整形外科学 リハビリテーション学	高岸 憲二 教授 坂本 雅昭 教授 山路 雄彦 准教授	高校球児のメディカルチェック
保健学研究科	保健学研究科研究・教育センター 地域保健推進室	浅川 康吉 准教授 山口 晴保 教授 佐藤 由美 教授	住民主導型介護予防事業「鬼石モデル」に対する多角的効果検証事業
医学部附属病院	肝疾患センター	森 昌朋 教授 柿崎 暁 助教 山崎 勇一 助教	地域肝炎治療コーディネーター養成事業
工学研究科		太田 直哉 副工学部長	工学クラブを中心とする群馬県・栃木県教育委員会、各市教育委員会と連携した総合的地域理科教育充実プログラム
工学研究科	電気電子工学専攻	藤井 雄作 教授	e自警ネットワークによる地域安全
工学研究科	機械システム工学専攻	船津 賢人 准教授 天谷 賢児 教授 高草木文雄 技術補佐員	スマイルマッププロジェクト2011
工学研究科 教育学部	機械システム工学専攻 技術教育講座	松原 雅昭 教授 三田 純義 教授	縄文式土器の親子文化財科学教室
総合情報メディアセンター	図書館	土師 守 副課長	「群馬県地域共同リポジトリ」の構築

こども体験教室「群馬ちびっこ大学」



体験教室会場の様子



「ミラクル☆シャボン玉」コーナー



「きみの力で、発電してみよう!」コーナー

公開講座 (平成24年度)

Aコース「一般市民」対象

講座名	期間及び時間数	募集人数
企業・産業分析スキル (金融ビジネスの基礎と実際を知る)	9日間 (22.5時間)	約30人
留学生との交流実践を通して学ぶ「異文化間コミュニケーショントレーニング」講座	3日間 (6時間)	約20人
医学生と学ぶ「医療のしくみと情報」	14日間 (22時間)	約20人
体感！源氏物語の世界 一色と香りの空間学一	2日間 (5時間)	約100人
社会起業家特論 (ビジネスプラン策定スキル)	9日間 (22.5時間)	約20人

Bコース「専門技術者等」対象

講座名	期間及び時間数	募集人数
高校生を対象とした授業公開	16日間 (24時間)	約50人
薬剤師のためのフィジカルアセスメント・褥瘡ケア入門①	1日間 (6時間)	約20人
医療職のためのリラクゼーション法の理論と実際	3日間 (9時間)	約30人
子ども一人一人が生き生きと学べる！ ーユニバーサルデザインラーニングとはー	1日間 (5時間)	約20人
聴覚障害児の教育	2日間 (15時間)	約30人
病弱児教育総論	2日間 (15時間)	約30人
視覚障害児の理解	2日間 (15時間)	約30人
薬剤師のためのフィジカルアセスメント・褥瘡ケア入門②	1日間 (6時間)	約20人
LD等教育総論	2日間 (15時間)	約30人
障害児教育総論	2日間 (15時間)	約30人



平成23年度公開講座Aコース
体感！源氏物語の世界



平成23年度公開講座Bコース
薬剤師のためのフィジカルアセスメント入門



平成23年度開放講座Aコース
グループの社会心理学



平成23年度開放講座Bコース
小学校教員のための英語活動ワークショップ: 授業や打ち合わせですぐに使えるやさしい英語表現マスターセミナー

開放講座 (平成24年度)

Aコース「一般市民」対象

講座名	期間及び時間数	募集人数
世界脳週間2012「脳科学者になるには」	1日間 (5時間)	約100人
国際協力、はじめの一歩！	1日間 (5時間)	約20人
電気を安全に扱うために	1日間 (2時間)	約20人
宮本常一『忘れられた日本人』を読む	3日間 (4.5時間)	約40人
薬剤耐性菌とは ～薬の効かない細菌を正しく怖がるために～	1日間 (2時間)	約70人
受容と排斥の心理学	1日間 (1.5時間)	約50人

Bコース「専門技術者等」対象

講座名	期間及び時間数	募集人数
小学校教員のための英語活動ワークショップ: Hi, Friends! を用いた授業や打ち合わせですぐ に使えるやさしい英語表現マスターセミナー	1日間 (2時間)	約30人
からだであそぼう!! からだでうたおう!!	3日間 (6時間)	約20人

学生の数

学部

平成24年5月1日現在（人）

学部	学科等	入学定員	収容定員	現 員																					
				1年次			2年次			3年次			4年次			5年次			6年次			計			
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
教育学部	学校教育教員養成課程	220	880	104	124	228	104	127	231	106	115	221	115	130	245							429	496	925	
社会情報学部	情報行動学科	50(10)	220	16	36	52	18	34	52	24	36	60	30	38	68							88	144	232	
	情報社会科学科	50(10)	220	29	23	52	34	19	53	30	29	59	58	22	80							151	93	244	
	計	100(20)	440	45	59	104	52	53	105	54	65	119	88	60	148							239	237	476	
医学部	医学科	108[15]	658	72	40	112	85	47	132	67	46	113	68	50	118	52	46	98	61	37	98	405	266	671	
	保健学科	160(10)	660	35	133	168	31	135	166	35	143	178	38	137	175							139	548	687	
	計	268 [15](10)	1,318	107	173	280	116	182	298	102	189	291	106	187	293	52	46	98	61	37	98	544	814	1,358	
工学部	新 学 科	応用化学・生物化学科	170	680	121	65	186	116	77	193	129	70	199	115	61	176							481	273	754
		機械システム工学科	70	280	74	4	78	81	7	88	88	5	93	76	2	78							319	18	337
		生産システム工学科	40	160	37	6	43	40	5	45	41	7	48	47	4	51							165	22	187
		環境プロセス工学科	40	160	37	7	44	37	13	50	42	7	49	38	6	44							154	33	187
		社会環境デザイン工学科	40	160	37	8	45	37	10	47	46	9	55	40	7	47							160	34	194
		電気電子工学科	70	280	73	3	76	73	4	77	92	1	93	84	2	86							322	10	332
		情報工学科	50	200	49	4	53	49	5	54	69	9	78	54	4	58							221	22	243
	昼 間 コ ー ス	応用化学科									1	1	1	1									2		2
		材料工学科												4		4							4		4
		生物化学工学科									1	1	2	2									3		3
		機械システム工学科									2	2	3	3									5		5
		建設工学科												2		2							2		2
		電気電子工学科									1	1	2	2									3		3
		情報工学科									1	1	4	4									5		5
	夜 間 主 コ ー ス	新 学 科	生産システム工学科	30	120	35		35	29	4	33	30	1	31	27	1	28							121	6
旧 学 科		応用化学科												1		1							1		1
		生物化学工学科												1		1							1		1
		機械システム工学科									2	2	1	1									3		3
		電気電子工学科												3		3							3		3
情報工学科												3		3							3		3		
計	510(30)	2,040 [60]	463	97	560	462	125	587	545	109	654	508	87	595							1,978	418	2,396		
合 計	1,098 [15](60)	4,678 [60]	719	453	1,172	734	487	1,221	807	478	1,285	817	464	1,281	52	46	98	61	37	98	3,190	1,965	5,155		

注：[] 内の数字は2年次編入学定員を表し、外数である。() 内の数字は3年次編入学を表し、外数である。工学部の編入学定員は学科共通。[] 内の数字は工学部学科共通収容定員を表し、外数である。

研究科	専攻	入学定員	収容定員	現 員																		
				1年次			2年次			3年次			4年次			5年次			計			
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
教育学研究科	修士課程	障害児教育専攻	3	6	2	1	3	2	1	3									4	2	6	
		教科教育実践専攻	20	40	13	8	21	15	8	23									28	16	44	
		小 計	23	46	15	9	24	17	9	26									32	18	50	
	専門職学位課程	教職リーダー専攻	16	32	9	9	18	9	8	17									18	17	35	
	計	39	78	24	18	42	26	17	43									50	35	85		
社会情報学 研 究 科	修士課程	社会情報学専攻	14	28	7	7	14	9	8	17								16	15	31		
医学系 研 究 科	修士課程	生命医科学専攻	15	30	8	4	12	1	5	6								9	9	18		
	博士課程	医 学 専 攻	57	243	45	14	59	29	13	42	41	15	56	76	34	110		191	76	267		
	計	72	273	53	18	71	30	18	48	41	15	56	76	34	110		200	85	285			
保健学 研 究 科	博士前期課程	保 健 学 専 攻	50	100	25	29	54	24	28	52								49	57	106		
	博士後期課程	保 健 学 専 攻	10	35							5	8	13	3	6	9	18	47	65	26	61	87
	計	60	135	25	29	54	24	28	52	5	8	13	3	6	9	18	47	65	75	118	193	
工学研究科	博士前期課程	応用化学・生物化学専攻	106	212	73	31	104	86	31	117									159	62	221	
		機械システム工学専攻	44	88	62	2	64	63	3	66									125	5	130	
		生産システム工学専攻	30	60	28	1	29	38	8	46									66	9	75	
		環境プロセス工学専攻	22	44	21	7	28	27	3	30									48	10	58	
		社会環境デザイン工学専攻	22	44	18	3	21	12	7	19									30	10	40	
		電気電子工学専攻	44	88	60	7	67	59	4	63									119	11	130	
		情報工学専攻	32	64	30	2	32	40	2	42									70	4	74	
		小 計	300	600	292	53	345	325	58	383									617	111	728	
	博士後期課程	工 学 専 攻	39	117							30	2	32	26	3	29	49	10	59	105	15	120
		旧専攻	生産工学専攻														2		2	2		2
ナノ材料システム工学専攻																						
小 計	39	117							30	2	32	26	3	29	51	10	61	107	15	122		
計	339	717	292	53	345	325	58	383	30	2	32	26	3	29	51	10	61	724	126	850		
課程別内訳	修士課程及び博士前期課程		402	804	347	102	449	376	108	484								723	210	933		
	博士課程及び博士後期課程		106	395	45	14	59	29	13	42	76	25	101	105	43	148	69	57	126	324	152	476
	専門職学位課程		16	32	9	9	18	9	8	17									18	17	35	
合 計			524	1,231	401	125	526	414	129	543	76	25	101	105	43	148	69	57	126	1,065	379	1,444

専攻科

専攻科	専攻	入学定員	収容定員	現 員		
				男	女	計
特別支援教育特別専攻科	重複障害教育専攻	15	15	4	9	13

入学志願状況等

平成24年4月1日現在 (人)

入学志願状況 (平成24年度)

学 部	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
教 育 学 部	220	483	508 (2)	991 (2)	4.5	104	124	228
社会情報学部	100	222 (6)	177 (5)	399 (11)	4.0	45	58 (1)	103 (1)
医 学 部	268	644	816	1,460	5.4	102	171	273
工 学 部	510	1,247 ⁽⁴³⁾ _[5]	289 ⁽⁹⁾ _[1]	1,536 ⁽⁵²⁾ _[6]	3.0	446 ⁽⁴⁾ _[4]	96 [1]	542 ⁽⁴⁾ _[5]
計	1,098	2,596 ⁽⁴⁹⁾ _[5]	1,790 ⁽¹⁶⁾ _[1]	4,386 ⁽⁶⁵⁾ _[6]	4.0	697 ⁽⁴⁾ _[4]	449 ⁽¹⁾ _[1]	1,146 ⁽⁵⁾ _[5]

注：() 内の数字は私費外国人留学生入試による志願者数・入学者数を表し、外数である。

[] 内の数字はマレーシア政府派遣留学生を表し、外数である。

2年次編入学 (平成24年度)

学 部 等	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
医学部医学科	15	238	149	387	25.8	15	0	15

3年次編入学 (平成24年度)

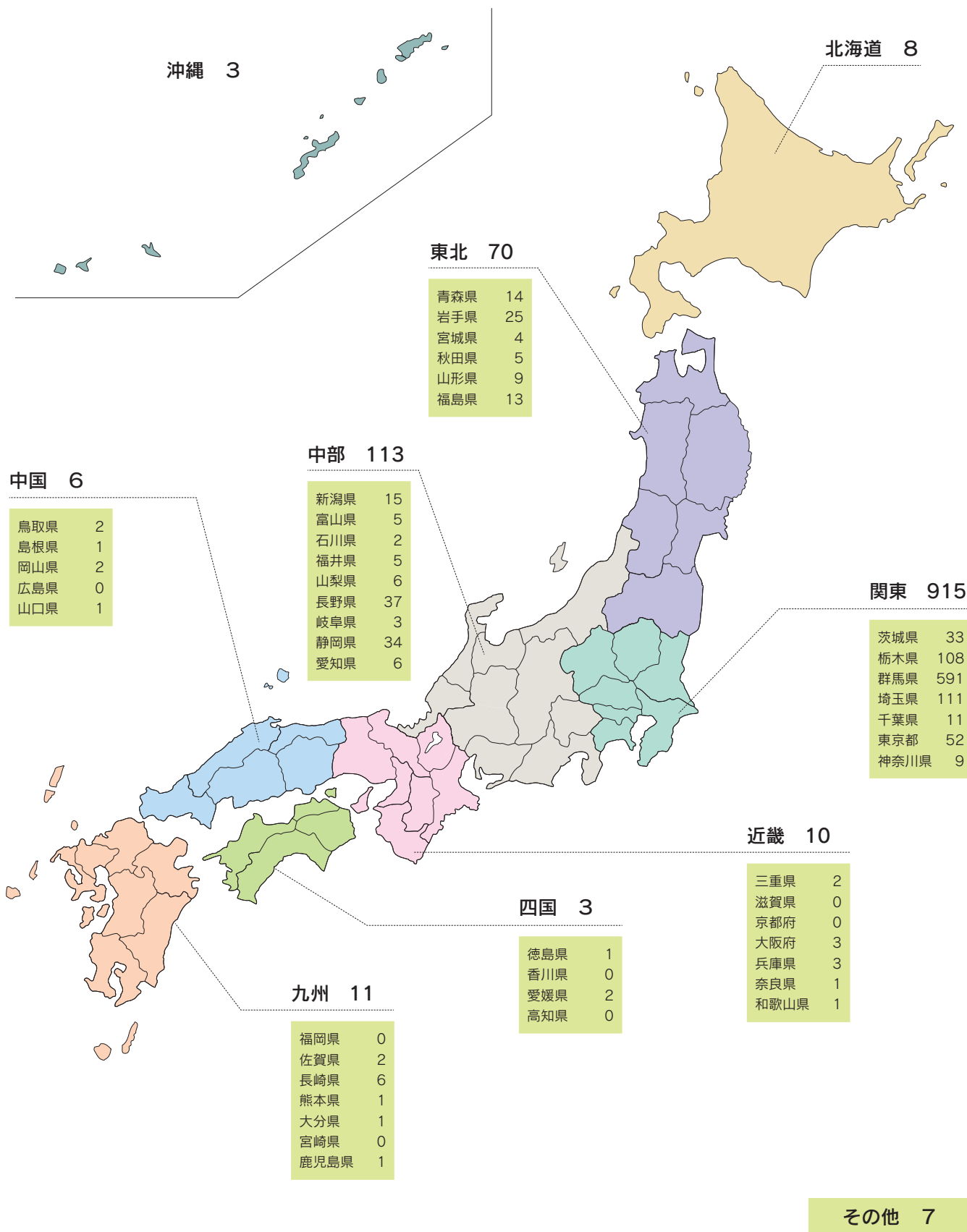
学 部 等	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
社会情報学部	20	40	36	76	3.8	9	10	19
医学部保健学科	10	1	37	38	3.8	0	6	6
工 学 部	30	54	10	64	2.1	26	6	32
計	60	95	83	178	3.0	35	22	57



入学式

学部入学者の出身地区別内訳 (平成24年度)

平成24年4月1日現在 (人)



卒業・修了者数・学位授与者数

平成24年5月1日現在 (人)

平成23年度卒業・修了者数

区分 学部	学部	大 学 院										専攻科	合 計
		修士課程			博士課程			専門職学位課程			計		
		男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計			
教育学部	219	9	13	22				13	3	16	38	10	267
社会情報学部	116	8	7	15							15		131
医学部	280	33	32	65	57	18	75				140		420
工学部	574	319	41	360	17	2	19				379		953
計	1,189	369	93	462	74	20	94	13	3	16	572	10	1,771

卒業・修了者数 (累計)

区分 学部	学部	大学院				専攻科	臨時教員 養成課程	2年課程	合 計
		修士課程	博士課程	専門職 学位課程	計				
教育学部	15,744	840		43	883	327	235	1,419	18,608
社会情報学部	1,753	170			170				1,923
医学部	7,109	562	1,432		1,994				9,103
工学部	24,877	6,685	445		7,130	47			32,054
計	49,483	8,257	1,877	43	10,177	374	235	1,419	61,688
医療技術短期大学部	2,647					340			2,987
工業短期大学部	4,886								4,886

学位授与者数

種 類	計
博士 (医学)	2,783
課程修了	1,387
論文提出	1,396
博士 (保健学)	46
課程修了	45
論文提出	1
博士 (工学)	555
課程修了	445
論文提出	110
修士 (教育学)	840
修士 (社会情報学)	170
修士 (生命医科学)	43
修士 (保健学)	519
修士 (工学)	6,685
教職修士 (専門職)	43

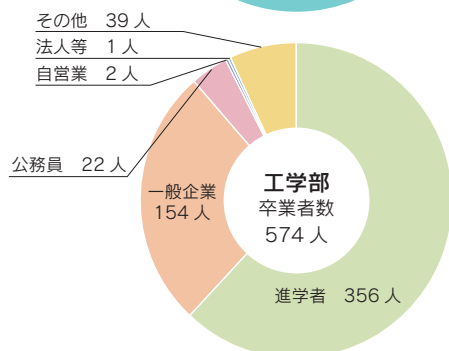
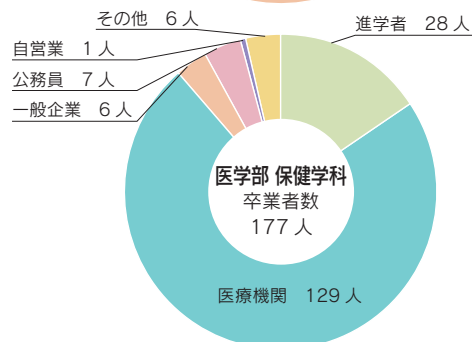
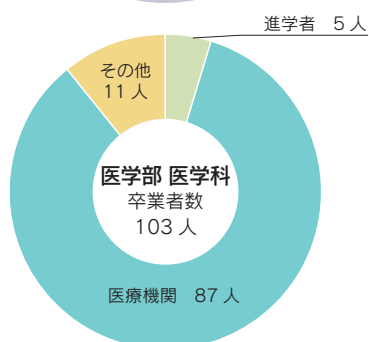
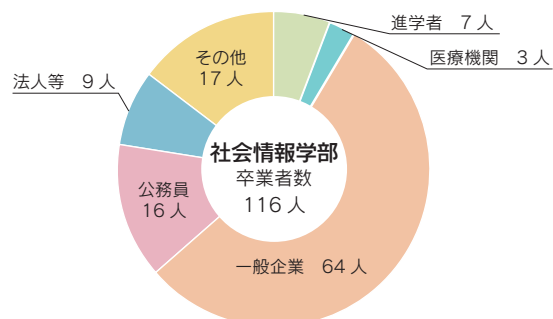
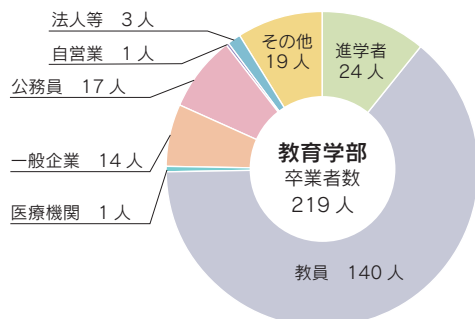


学位記授与式

卒業後の状況

平成24年5月1日現在（人）

学部卒業者の進路状況（平成23年度 ※9月卒業者を含む）



大学院修了者の進路状況（平成23年度 ※9月修了者を含む）

研究科	区分	修了者数	進学者数	就職者数						計	その他
				教員	医療機関	一般企業	公務員	自営業	法人等		
教育学研究科	修士課程 専門職学位課程	38		33	1		2		1	37	1
社会情報学研究科	修士課程	15			2	5	1	2	2	12	3
医学系研究科	修士課程 生命医科学	14	7		1	5			1	7	
	博士課程 医科学専攻	64	2	11	43	1			2	57	5
保健学研究科	博士前期課程 保健学専攻	51	5	5	26	4	3			38	8
	博士後期課程 保健学専攻	11		4	5	1				10	1
工学研究科	博士前期課程	360	14		1	313	9	2	1	326	20
	博士後期課程	19		1		11	2		4	18	1
計		572	28	54	79	340	17	4	11	505	39

専攻科修了者の進路状況（平成23年度）

専攻科	区分	修了者数	進学者数	就職者数						計	その他
				教員	医療機関	一般企業	公務員	自営業	法人等		
特別支援教育特別専攻科		10		10						10	

国際交流協定

国際交流協定

■大学間協定 (34件 : 17ヶ国・1地域)

■学部間協定 (51件 : 16ヶ国・1地域)

アジア

中華人民共和国

西安交通大学 (平成13.12.4)
 廈門大学 (平成14.9.19)
 沈阳化工大学 (平成15.3.31)
 華北電力大学 (平成17.5.22)
 大連医科大学 (平成18.7.12)
 大連理工大学 (平成19.1.30)
 大連工業大学 (平成19.9.26)
 中国科学院過程工程研究所 (平成20.7.16)
 重慶交通大学 (平成21.3.25)
 海南大学 (平成21.7.29)

南開大学生命科学学院 (平成14.11.2)
 中山大学化学・化学工程学院 (平成17.11.2)
 内蒙古大学生命科学学部 (平成19.2.13)
 合肥工業大学 (計器科学及光電工学院) (平成20.2.23)
 上海交通大学 (機械工学部) (平成20.3.25)
 上海理工大学光学・電子情報工程学院 (平成20.7.28)
 成都理工大学地質災害防止及び地質環境保護国家重点
 実験室 (平成20.10.8)
 中国鉱業大学 (平成21.1.23)
 東北大学理学院 (平成21.2.28)
 清華大学機械工程学院 (平成21.3.29)
 西南交通大学機械工学部 (平成21.7.1)
 湖南科技大学 (平成21.10.16)
 河北工業大学材料学院 (平成22.3.20)

大韓民国

嶺南大学校 (平成15.9.5)
 建国大学校 (平成19.3.6)
 韓国原子力医学院 (平成19.10.18)
 ソウル大学校 (平成20.10.27)

全南国立大学校ホルモン研究センター (平成8.12.4)
 釜山国立大学校 (薬学部) (平成18.4.17)
 ソウル産業大学校産業大学院 (平成21.1.1)
 韓国先端ケイ素材料研究教育センター (平成21.2.3)
 韓国科学技術院ナノサイエンス研究部門 (平成21.2.5)
 暹羅大学校光機能エネルギー材料センター (平成21.5.22)
 木浦大学校工学部 (平成21.8.17)
 慶熙大学校工科大学 (平成21.12.14)

ヨーロッパ

ヨーロッパ

ハンガリー

カローリ・ゲーシュパール・カルビン派大学 (平成22.3.17)

スロベニア

リュブリャーナ大学 (平成20.9.19)

ドイツ

ドイツ重イオン研究所ヘルムホルツセンター (平成20.11.18)

英国

グリンドウール大学 (平成20年度～)
 (旧北東ウェールズ高等教育インスティテュート) (昭和62.3.17)

シティ大学 (平成6.1.27)

サンダーランド大学 (平成14.7.3)

フランス

地中海大学 (マルセイユ大学 II) (平成17.7.25)

モンペリエ大学国立化学大学院 (平成21.2.11)

パリ電気電子エンジニア高等学院 (平成21.3.2)

イタリア

フィレンツェ大学 (平成15.4.16)

ロシア

クラスノヤルスク医科大学 (平成19.4.15)

アゼルバイジャン

バクー国立大学 (平成21.1.27)

ポーランド

ヤギェウォ大学 (平成24.3.29)

スウェーデン

ボローズ大学工学部 (平成24.2.22)

アジア

オセアニア

台湾

東海大学 (平成15.6.27)
国立台北教育大学 (平成18.3.24)

龍華科技大学工程学院 (平成18.12.13)
国立虎尾科技大学工学部、電気・情報工学部 (平成22.1.26)

フィリピン

フィリピン大学マニラ校 (平成21.2.16)

モンゴル

モンゴル健康科学大学 (平成19.8.22)

マレーシア

マレーシア国立大学 (平成21.2.23)

ベトナム

ハノイエ科大学 (機械工学部) (平成20.1.23)

インドネシア

バジャジャラン大学 (平成8.9.20)
インドネシア教育大学 (平成21.3.16)
バンドン工科大学数理・自然科学部 (平成22.10.11)

バングラデッシュ

ダッカ大学 (平成22.12.12)

タイ

チェンマイ大学 (平成19.9.11)

モンクット王ラカバン工科大学 (平成20.12.12)
ラジャマンガラ工科大学産業工学部 (平成21.5.26)
泰日工業大学 (平成21.7.21)
マヒドル大学理学部 (平成23.2.22)
ナコンバトムラチャット大学理工学部 (平成24.2.2)

インド

アリガルモスリム大学 (平成18.3.22)
インド工科大学デリー校 (平成22.1.18)

北米

北米

カナダ

オタワ大学 (平成13.11.26)
プリティッシュコロンビア大学 (平成16.3.31)

米国

サンディエゴ州立大学 (平成23.3.3)
シアトル・バシフィック大学 (平成8.10.1)
ワシントン大学 (医学部) (平成14.4.2)
ワシントン大学 (工学部) (平成18.6.26)
マサチューセッツ総合病院 Francis H. Burr 陽子線治療センター/
放射線腫瘍学科 (平成20.5.6)
d/b/a メイヨクリニック メイヨクリニックロチェスター
放射線腫瘍学科 (平成20.10.23)
マーシャル大学生物学部 (平成21.6.29)
メースダコタ州立大学 (平成22.5.27)
ビュージェットサウンド大学 (平成23.10.28)

中南米

中南米

ニカラグア

ニカラグア国立自治大学マナグア校 (平成17.7.1)

コロンビア

サバナ大学 (平成16.4.20)

ブラジル

サンパウロ大学 (平成21.2.20)

ペルー

ペルーボンティフィシアカトリック大学 (平成20.3.25)

オセアニア

オーストラリア

マッコリー大学 (平成15.6.7)

外国人留学生数

「国費」… 文部科学省国費外国人留学生

「私費」… 私費外国人留学生

※外国政府（マレーシア政府派遣など）の奨学金を受給する者及びJASSOの留学生対象奨学金、民間の奨学金を受給する者を含む。

平成24年5月1日現在（人）

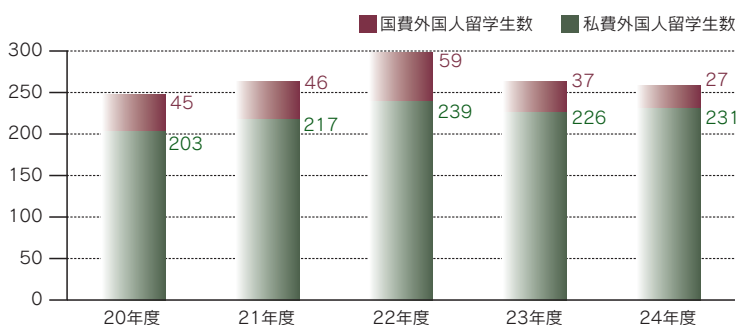
地域	国名	学部学生		大学院学生				研究生				特別聴講学生				特別研究学生		計		合計	
		国費	私費	修士課程		博士課程		学部		大学院		学部		大学院		大学院		国費	私費		
				国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費				
アジア (12ヶ国 1地域)	中国	2	11	1	45	2	23			13		1						4	5	106	111
	マレーシア	1	34		4														1	44	45
	ベトナム		15	1	7					2									1	26	27
	インドネシア	1	3		2	5	9			1					1				6	16	22
	台湾				3		1							4	1					9	9
	タイ				1									4				1		6	6
	モンゴル		1		3	1	1												1	5	6
	韓国		2											1						3	3
	バングラディシュ	2				1														3	3
	カンボジア	1			1														1	1	2
	ネパール						2													2	2
	フィリピン					1														1	1
バキスタン						1													1	1	
	小計	7	66	2	66	10	45		16		1		19		1		5	19	219	238	
中近東 (4ヶ国)	イエメン						1												1	1	
	トルコ						1												1	1	
	イラン		1																1	1	
	レバノン					1												1	1	1	
	小計		1			1	2												1	3	4
アフリカ (4ヶ国)	ケニア	2																	2	2	
	エジプト						1												1	1	
	コートジボアール		1																1	1	
	コンゴ					1													1	1	
	小計	2	1			1	1												3	2	5
北米(1ヶ国)	アメリカ					1													1	1	
	小計					1													1	1	
中南米 (4ヶ国)	ブラジル								1											1	1
	コロンビア						1													1	1
	ペルー					1													1	1	
	ニカラグア												1							1	1
	小計					1	1		1				1						1	3	4
ヨーロッパ (6ヶ国)	アゼルバイジャン													1						1	1
	イタリア							1												1	1
	イギリス		1																	1	1
	スペイン	1																		1	1
	スロベニア												1							1	1
	ハンガリー												1							1	1
	小計	1	1					1					3						2	4	6
合計(31ヶ国1地域)		10	69	2	66	14	49	1	17		1		23		1		5	27	231	258	

学部・研究科別内訳

教育学部・教育学研究科					2			1	1			6						1	9	10	
社会情報学部・社会情報学研究科		3		13				4		1		7	1						29	29	
医学部医学科・医学系研究科	1			2	9	17													10	19	29
医学部保健学科・保健学研究科		1				3						2								6	6
工学部・工学研究科	9	65		2	49	5	29		12			8						5	16	168	184
計		79			131				19			24						5	258		

国費・私費外国人留学生数

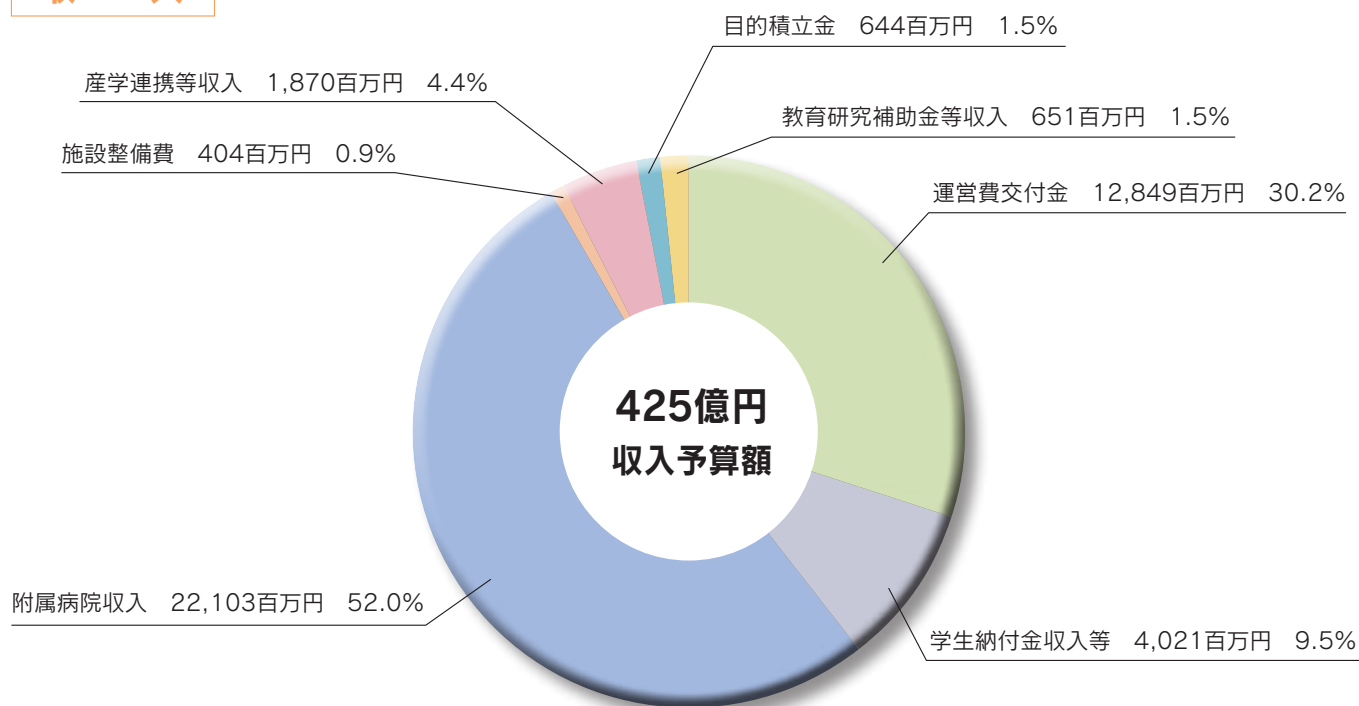
平成20～24年度（人）



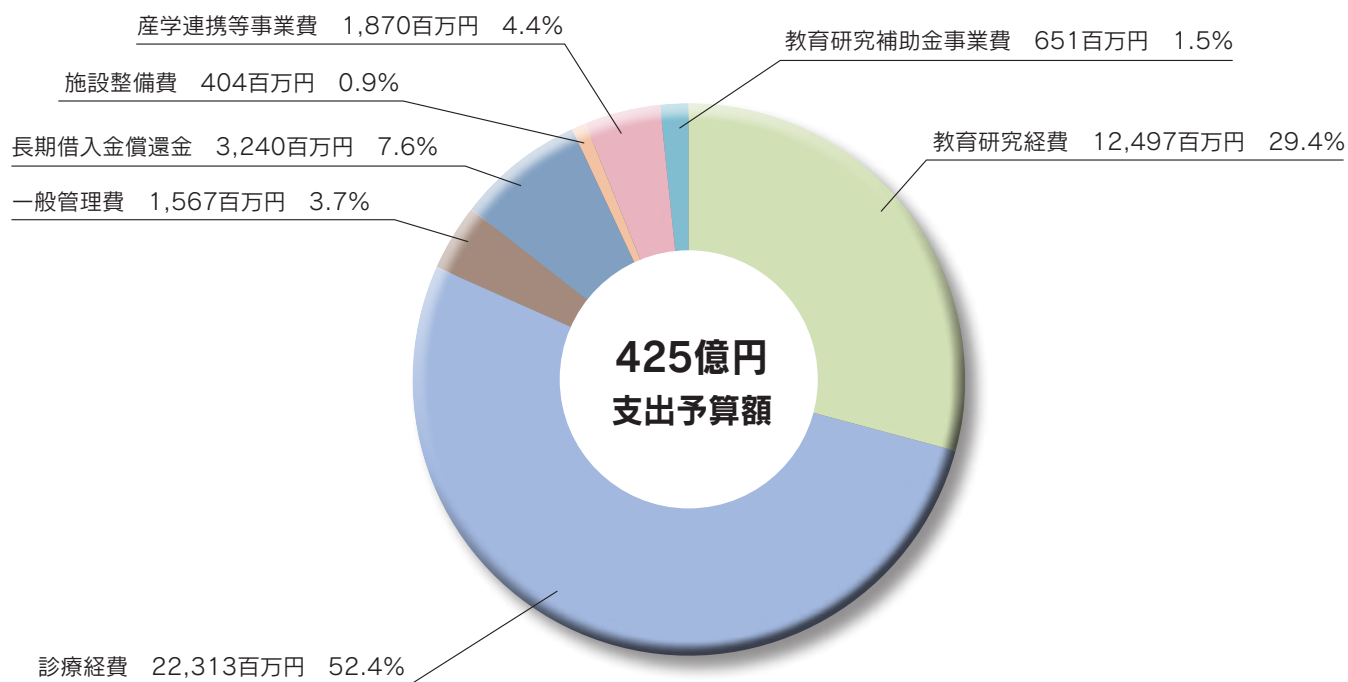
留学生スキー研修（草津）

平成24年度収入・支出予算額

収入



支出



※平成23事業年度の決算については、文部科学大臣の承認後、本学のホームページにおいて公表することとしております。(6月末現在)

研究費等受入状況

平成24年5月1日現在 (千円)

科学研究費補助金・科学研究費助成事業採択状況 (平成24年度)

研究種目	採択件数	金額
新学術領域研究	24	124,800
基盤研究(A)	2	27,500
基盤研究(B)	46	181,800
基盤研究(C)	201	229,000
挑戦的萌芽研究	56	65,000

研究種目	採択件数	金額
若手研究(A)	5	21,800
若手研究(B)	106	124,600
研究成果公開促進費(データベース)	1	2,300
研究活動スタート支援	3	3,400
奨励研究	5	2,800
特別研究員奨励費	3	2,000
計	452	785,000 (間接経費除く)

その他の科学研究費補助金 (平成23年度)

研究種目	件数	金額
第3次がん総合戦略研究事業	1	5,000
地球規模保健課題推進研究事業(国際医学協力研究事業)	2	800
地域医療基盤開発推進研究事業	1	7,600
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	2	1,100
がん臨床研究事業	5	3,950
障害者対策総合研究事業	2	5,224
難治性疾患克服研究事業	18	26,562

研究種目	件数	金額
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	2	5,650
認知症対策総合研究事業	2	3,800
慢性の痛み対策研究事業	1	600
長寿科学総合研究事業	1	2,000
産業技術助成事業費助成金	3	36,150
環境総合推進費補助金	2	20,277
先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム)	3	170,688
計	45	289,401

補助金等 (平成23年度)

区分	件数	金額
大学改革推進等補助金	8	370,280
研究拠点形成費等補助金	1	109,016
科学技術戦略推進費補助金	3	94,868
科学技術人材育成費補助金	2	182,941
設備整備費補助金	2	188,972
地域産学官連携科学技術振興事業費補助金	2	21,143

区分	件数	金額
創造的産学連携体制整備事業費補助金	1	12,463
感染症予防事業等国庫負担(補助)金	1	34,899
群馬県感染症指定医療機関運営事業費補助金	1	8,656
群馬県地域医療再生基金事業費補助金	1	60,000
新人看護職員研修事業費補助金	1	1,820
救急医療施設費等補助金	1	2,472
計	24	1,087,530

寄附金 (平成23年度)

区分	件数	金額
計	2,007	1,364,366

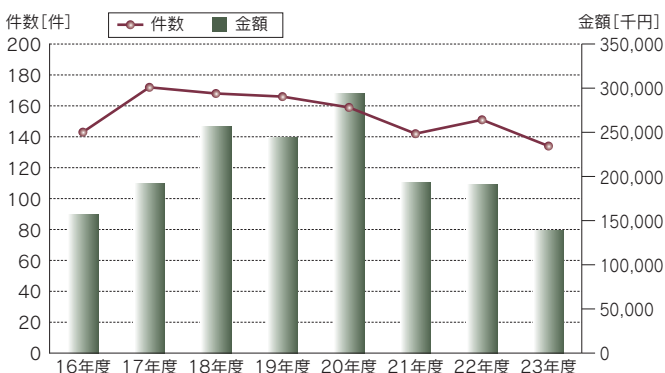
受託研究 (平成23年度)

区分	件数	金額
計	97	396,516

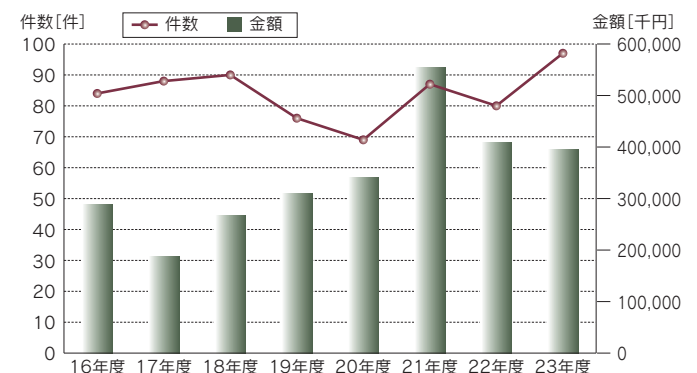
共同研究 (平成23年度)

区分	件数	金額
計	134	138,420

民間等との共同研究受入状況



民間等との受託研究受入状況



職員の数・土地・建物面積

職員の数

平成24年5月1日現在 (人)

区 分	役 員	教 員								事務等 技術職員	合 計
		教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	教 論	養護教諭	計		
事 務 局	6									136	142
教 育 学 部		50	31	5	1		84	4	175	21	196
大 学 院 教 育 学 研 究 科		8	1						9		9
社 会 情 報 学 部		19	9	3		1			32	8	40
医 学 部										15	15
大 学 院 医 学 系 研 究 科		37	32	15	77				161		161
大 学 院 保 健 学 研 究 科		34	13	7	27				81		81
昭 和 地 区 事 務 部										111	111
工 学 部										60	60
大 学 院 工 学 研 究 科		72	73	5	44	1			195	1	196
生 体 調 節 研 究 所		9	8	1	16				34	5	39
総 合 情 報 メ デ ィ ア セ ン タ ー		1		1					2	4	6
大 学 教 育 ・ 学 生 支 援 機 構 (教 育 基 盤 セ ン タ ー)			4	1					5		5
大 学 教 育 ・ 学 生 支 援 機 構 (学 生 支 援 セ ン タ ー)		1							1		1
大 学 教 育 ・ 学 生 支 援 機 構 (健 康 支 援 総 合 セ ン タ ー)		1	1						2	1	3
研 究 ・ 産 学 連 携 戦 略 推 進 機 構		1	1	1					3		3
重 粒 子 線 医 学 推 進 機 構		2		1	9				12		12
国 際 教 育 ・ 研 究 セ ン タ ー			2	3					5		5
先 端 科 学 研 究 指 導 者 育 成 ユ ニ ッ ト			2	2	6				10		10
医 学 部 附 属 病 院		2	10	35	146				193	841	1,034
合 計	6	237	187	80	326	2	84	4	920	1,203	2,129

土地・建物面積

平成24年5月1日現在 (単位: m²)

地 区	部 局 等	土地面積	建物延面積
荒 牧 地 区	教 育 学 部 大 学 院 教 育 学 研 究 科 社 会 情 報 学 部 大 学 院 社 会 情 報 学 研 究 科 総 合 情 報 メ デ ィ ア セ ン タ ー 大 学 教 育 ・ 学 生 支 援 機 構 研 究 ・ 産 学 連 携 戦 略 推 進 機 構 国 際 教 育 ・ 研 究 セ ン タ ー 事 務 局 等	255,763	45,649
昭 和 地 区	医 学 部 大 学 院 医 学 系 研 究 科 大 学 院 保 健 学 研 究 科 医 学 部 附 属 病 院 生 体 調 節 研 究 所 重 粒 子 線 医 学 推 進 機 構 昭 和 地 区 事 務 部 等	161,631	(581) 170,179
若 宮 地 区	教 育 学 部 附 属 幼 稚 園 教 育 学 部 附 属 小 学 校 教 育 学 部 附 属 特 別 支 援 学 校	37,990	13,416
上 沖 地 区	教 育 学 部 附 属 中 学 校	37,430	6,263
桐 生 地 区	工 学 部 大 学 院 工 学 研 究 科	103,021	66,665
太 田 地 区	工 学 部 (生 産 シ ス テ ム 工 学 科) 大 学 院 工 学 研 究 科 (生 産 シ ス テ ム 工 学 専 攻)	(8,696)	(4,561)
その他の地区 (前橋市、桐生市、草津町、渋川市、長野原町)	学 生 寄 宿 舎 教 職 員 宿 舎 等 草 津 共 同 利 用 研 修 施 設 伊 香 保 研 修 所 北 軽 井 沢 研 修 所	(12,084) 36,199	18,945
合 計		(20,780) 632,034	(5,142) 321,117

※ ()内の数字は借用面積で外数。

部局等所在地

符号	部局等の名称	所在地	電 話
A	事務局	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7005 (総務係)
	総務部		(027)220-7044 (総務・監査係)
	財務部		(027)220-7125 (総務係)
	学務部		(027)220-7512 (総括係)
	研究推進部		(027)220-7084 (企画・総務係)
	施設運営部		(027)220-7017
	荒牧地区環境美化室		(027)220-7204 (総務係)
	教育学部		(027)231-3170
	〃 附属学校教育臨床総合センター		(027)231-2804 (代)
	〃 附属幼稚園	〒371-0032 前橋市若宮町2-5-3	(027)231-3023 (代)
	〃 附属小学校	〒371-0032 前橋市若宮町2-8-1	(027)232-9758
	〃 附属中学校	〒371-0052 前橋市上沖町612	(027)220-7204 (総務係)
	〃 附属特別支援学校	〒371-0032 前橋市若宮町2-8-1	(027)220-7403 (総務係)
	大学院教育学研究科	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7111 (代)
	社会情報学部	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7111 (代)
	大学院社会情報学研究科		(027)220-7111 (代)
	医学部		(027)220-7111 (代)
	大学院医学系研究科	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22	(027)220-7111 (代)
	〃 附属動物実験施設		(027)220-7111 (代)
	〃 附属薬剤耐性菌実験施設		(027)220-7111 (代)
	大学院保健学研究科	〒371-8514 前橋市昭和町3-39-22	(027)220-7111 (代)
	医学部附属病院	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-15	(027)220-7111 (代)
B	工学部	桐生キャンパス 〒376-8515 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1111 (代)
F		太田キャンパス 〒373-0057 太田市本町29-1	(0276)50-2231 (代)
B	大学院工学研究科	桐生キャンパス 〒376-8515 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1111 (代)
F		太田キャンパス 〒373-0057 太田市本町29-1	(0276)50-2231 (代)
A	生体調節研究所	〒371-8512 前橋市昭和町3-39-15	(027)220-7111 (代)
	〃 附属生体情報ゲノムリソースセンター		
	〃 附属代謝シグナル研究展開センター		

符号	部局等の名称	所在地	電 話
	総合情報メディアセンター 図書館	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7170 (情報企画係)
	〃 情報基盤部門		(027)220-7111 (代)
A	〃 図書館医学分館	〒371-8513 前橋市昭和町3-39-22	(027)220-7111 (代)
	〃 情報基盤部門昭和分室	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22	(027)220-7111 (代)
B	〃 図書館工学分館	〒376-8516 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1111 (代)
	〃 情報基盤部門桐生分室		(027)220-7123
	大学教育・学生支援機構 教育基盤センター		(027)220-7136
	〃 学生支援センター		(027)220-7149
A	〃 学生受入センター	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7163
	〃 健康支援総合センター		(027)220-7111 (代)
	研究・産学連携戦略推進機構 研究戦略室		(027)220-7111 (代)
	〃 産学連携・知的財産戦略室		(027)220-7111 (代)
	〃 産学連携・共同研究イノベーションセンター		(027)220-7111 (代)
B	〃 群馬大学 T L O	〒376-8515 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1111 (代)
	〃 高度人材育成センター		(027)220-7111 (代)
	〃 インキュベーションセンター		(027)220-7111 (代)
	〃 機器分析センター		(027)220-7111 (代)
	重粒子線医学推進機構 重粒子線医学研究センター	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22	(027)220-7111 (代)
A	〃 重粒子線医学センター	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-15	(027)220-7628
	国際教育・研究センター	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7111 (代)
	多文化共生教育・ 研究プロジェクト推進室		(027)220-7111 (代)
C	伊香保研修所	〒377-0102 渋川市伊香保町 伊香保字香湯14-1	(0279)72-4605
D	草津共同利用研修施設	〒377-1711 吾妻郡草津町草津字白根737	(0279)88-2212
E	北軽井沢研修所	〒377-1412 吾妻郡長野原町北軽井沢 字南木山大櫓2032-242	(0279)84-2273

部局等所在地分布図



建物配置図

荒牧地区



教育学部



社会情報学部

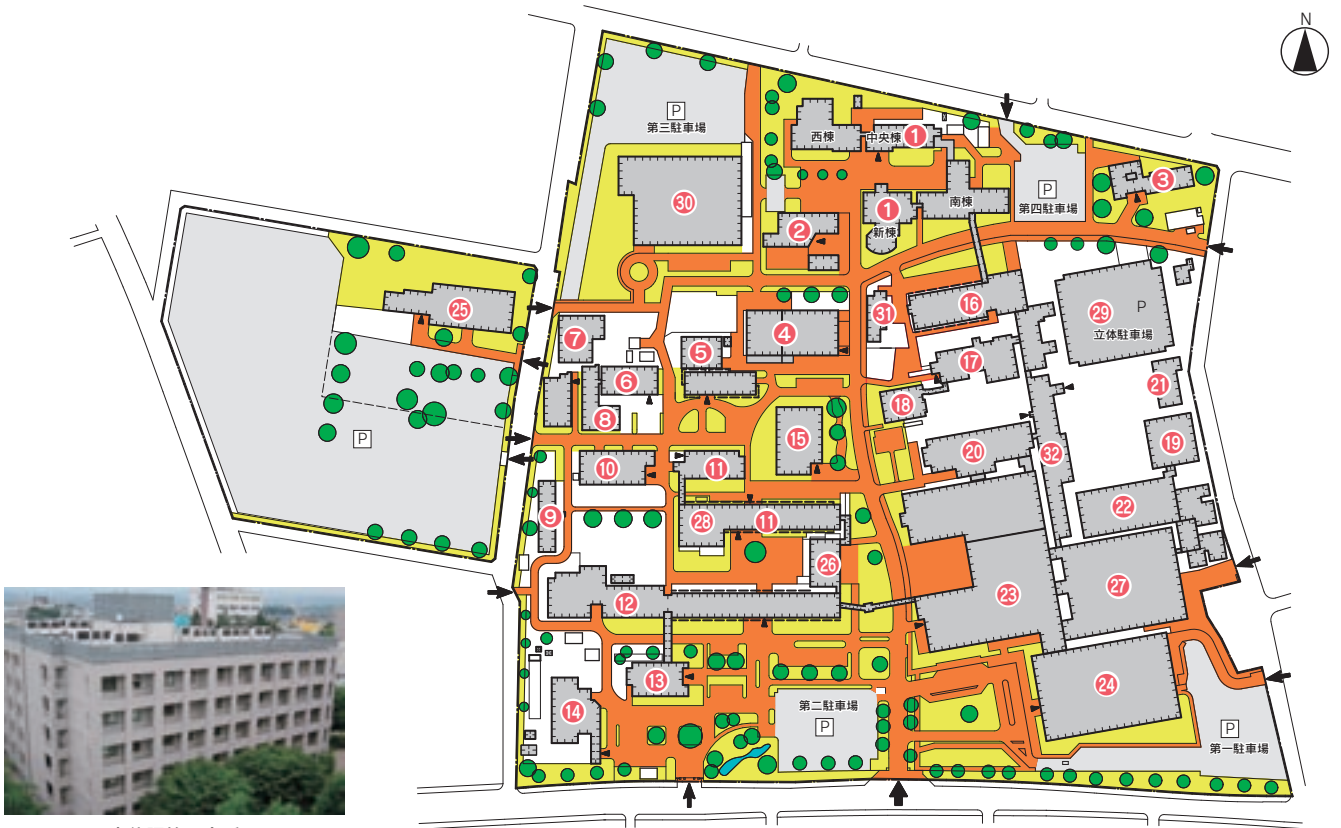


自主自律の森（憩いの広場）



- | | |
|---------------------------------------|----------------------------------|
| ① 学校教育臨床総合センター
多文化共生教育・研究プロジェクト推進室 | ⑬ 社会情報学部 |
| ② 教育学部 | ⑭ 学生センター（教養教育GA棟）
大学教育・学生支援機構 |
| ③ 総合情報メディアセンター
（図書館／情報基盤部門） | ⑮ 教養教育GB棟・GC棟 |
| ④ 総合情報メディアセンター
（情報基盤部門荒牧センター） | ⑯ 教養大講堂 |
| ⑤ 教職員等宿舎 | ⑰ 体育館・武道館 |
| ⑥ 基幹棟 | ⑱ 大学会館「アザレア」
ミュージックホール |
| ⑦ 健康支援総合センター | ⑲ 国際教育・研究センター |
| ⑧ 荒牧地区環境美化室 | ⑳ キャリアサポート室 |
| ⑨ 電話交換室 | ㉑ 体育管理施設 |
| ⑩ 倉庫 | ㉒ 課外活動共用施設 |
| ⑪ 事務局
研究・産学連携戦略推進機構 | ㉓ 合宿研修施設 |
| ⑫ 守衛所 | ㉔ 憩いの広場 |
| | ㉕ 中央モール |
| | ㉖ 遊歩道 |

昭和地区



生体調節研究所



医学部保健学科



医学部附属病院



図書館医学分館

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------------|
| ① 医学部保健学科 | ①⑦ 臨床講義棟 |
| ② 福利施設 | ①⑧ 特別診療棟 |
| ③ 看護師宿舎 | ①⑨ 診療棟1 |
| ④ 中央機械室 | ①⑩ 診療棟3 |
| ⑤ 生体調節研究所
代謝シグナル研究展開センター | ①⑪ 病院基幹棟 |
| ⑥ RI研究棟 | ①⑫ 診療棟2 |
| ⑦ 特別高圧受変電室 | ①⑬ 病棟・診療棟 |
| ⑧ 生体情報ゲノムリソースセンター | ①⑭ 外来診療棟 |
| ⑨ 医学部基幹棟 | ①⑮ 課外活動施設、体育館 |
| ⑩ 動物実験施設 | ①⑯ プロジェクト棟（1F：石井ホール） |
| ⑪ 医学部（臨床棟） | ①⑰ 中央診療棟 |
| ⑫ 医学部（基礎棟） | ①⑱ 総合情報メディアセンター情報基盤部門昭和分室
（臨床棟1F） |
| ⑬ 基礎講義棟 | ①⑲ 立体駐車場 |
| ⑭ 刀城会館（記念会館） | ①⑳ 重粒子線照射施設（重粒子線医学研究センター） |
| ⑮ 総合情報メディアセンター図書館医学分館 | ①㉑ 保育所（ゆめのご保育園） |
| ⑯ 共用施設棟 | ①㉒ アメニティモール |

桐生地区



図書館工学分館



総合研究棟



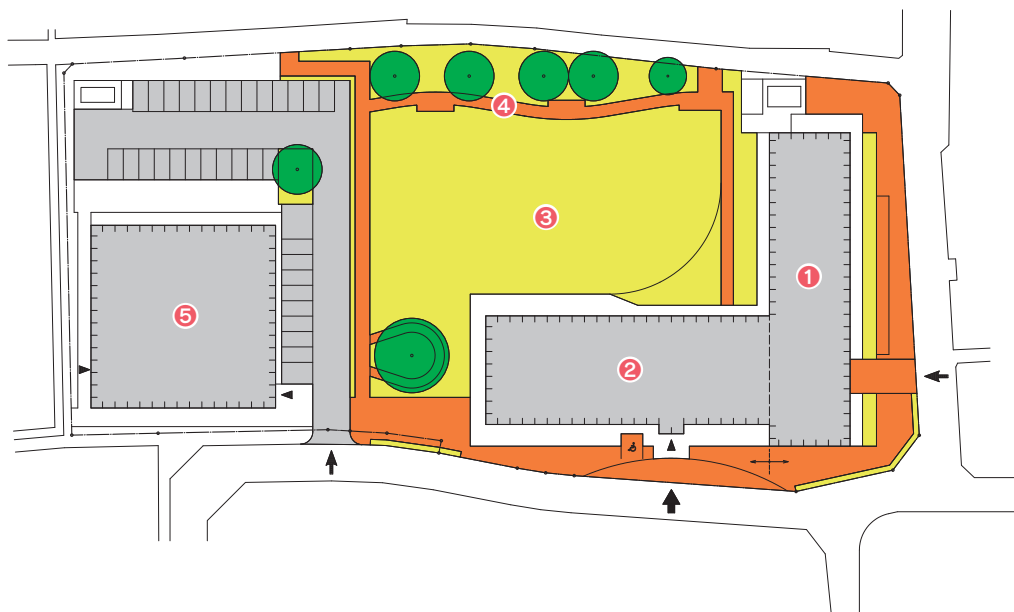
同窓記念会館



同窓記念会館 (内部)



- | | |
|-----------------------------------|---------------------------|
| ① 産学連携・共同研究イノベーションセンター
群馬大学TLO | ①⑦ 電算機棟 |
| ② 高度人材育成センター | ①⑧ 6号館 |
| ③ 同窓記念会館 | ①⑨ 2号館 |
| ④ 車庫 | ①⑩ エネルギーセンター |
| ⑤ 工学部会館 | ①⑪ 3号館 |
| ⑥ 環境保全支援センター | ①⑫ 8号館 |
| ⑦ 7号館 | ①⑬ 危険薬品庫 |
| ⑧ 社会環境デザイン工学実験棟 | ①⑭ 電気実験棟 |
| ⑨ 1号館 | ①⑮ RI実験施設 1,2 |
| ⑩ 共通講座 | ①⑯ 原動系実験研究棟 |
| ⑪ 講義棟 | ①⑰ 研究推進支援センター |
| ⑫ 4号館 | ①⑱ 総合情報メディアセンター情報基盤部門桐生分室 |
| ⑬ 5号館 | ①⑳ 体育館 |
| ⑭ インキュベーションセンター | ①㉑ 合宿所 |
| ⑮ 総合情報メディアセンター図書館工学分館 | ①㉒ 課外活動施設 |
| ⑯ プロジェクト棟 | ①㉓ 総合研究棟 |
| | ①㉔ 機器分析センター |



太田キャンパス概観

- ① 大学院研究棟
- ② 産学研究棟
- ③ 交流広場
- ④ 散策路
- ⑤ ものづくりリノベーションセンター



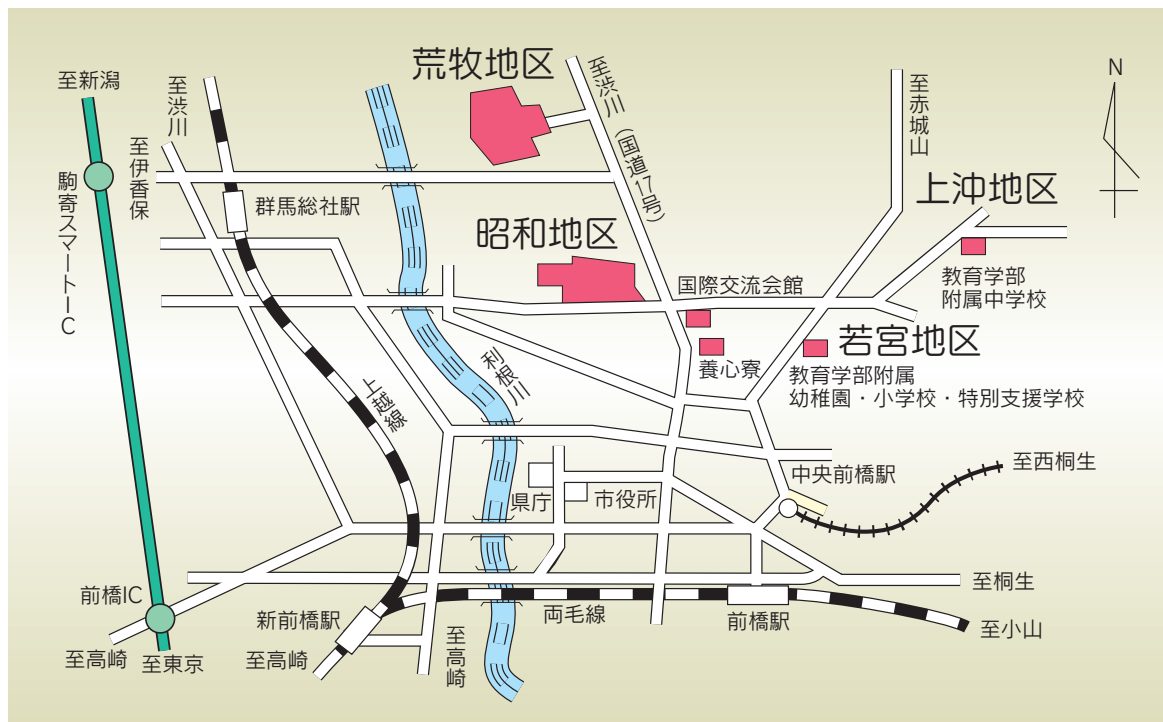
CADルーム



機械工作室

交通アクセス

荒牧・昭和・若宮・上沖地区



荒牧地区

JR

JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ8Km

JR上越線・吾妻線にて新前橋駅下車、北方へ8.4Km

バス

JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）

- ・群馬大学荒牧經由渋川市内循環渋川駅行、小児医療センター行「群馬大学荒牧」下車（所要時間約28分）

- ・渋川駅行、渋川市内循環渋川駅行

「前橋自動車教習所前」下車（所要時間約25分＋徒歩10分）

JR新前橋駅東口乗り場（関越交通バス）

- ・群大病院・群馬大学荒牧經由 総合スポーツセンター行、群大病院經由群馬大学荒牧行、群馬大学荒牧行「群馬大学荒牧」下車（所要時間約32分）

昭和地区

JR

JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ4Km

JR上越線・吾妻線にて新前橋駅下車、北方へ5.1Km

バス

JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）

- ・群大病院行・群大病院經由南橋団地行「群大病院」下車（所要時間約15分）

JR前橋駅北口3番乗り場（日本中央バス）

- ・群馬総社駅行「群大病院」下車（所要時間約15分）

JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）

- ・群馬大学荒牧經由渋川駅行、群馬大学荒牧經由渋川市内循環渋川駅行、渋川市内循環渋川駅行、小児医療センター行「群大病院入口」下車（所要時間約13分＋徒歩6分）

JR新前橋駅東口乗り場（関越交通バス）

- ・群大病院・群馬大学荒牧經由 総合スポーツセンター行、群大病院經由群馬大学荒牧行

「群大病院」下車（所要時間約21分）

- ・総合スポーツセンター行、群馬大学荒牧行

「群大病院入口」下車（所要時間約17分＋徒歩6分）

若宮地区

JR

JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ2Km

バス

JR前橋駅北口3番乗り場

- ・ 総合スポーツセンター方面行、湯の道利久行、群馬総社駅行「附属小前」下車 (所要時間約5分) (日本中央バス)

JR前橋駅北口6番乗り場

- ・ 富士見温泉行「附属小前」下車 (所要時間約5分) (関越交通バス・日本中央バス)
- ・ 国立赤城青少年交流の家行「附属小前」下車 (所要時間約5分) (関越交通バス)
- ・ 嶺公園行、小坂子行、荻窪公園行「附属小前」下車 (所要時間約5分) (永井バス)

上沖地区

JR

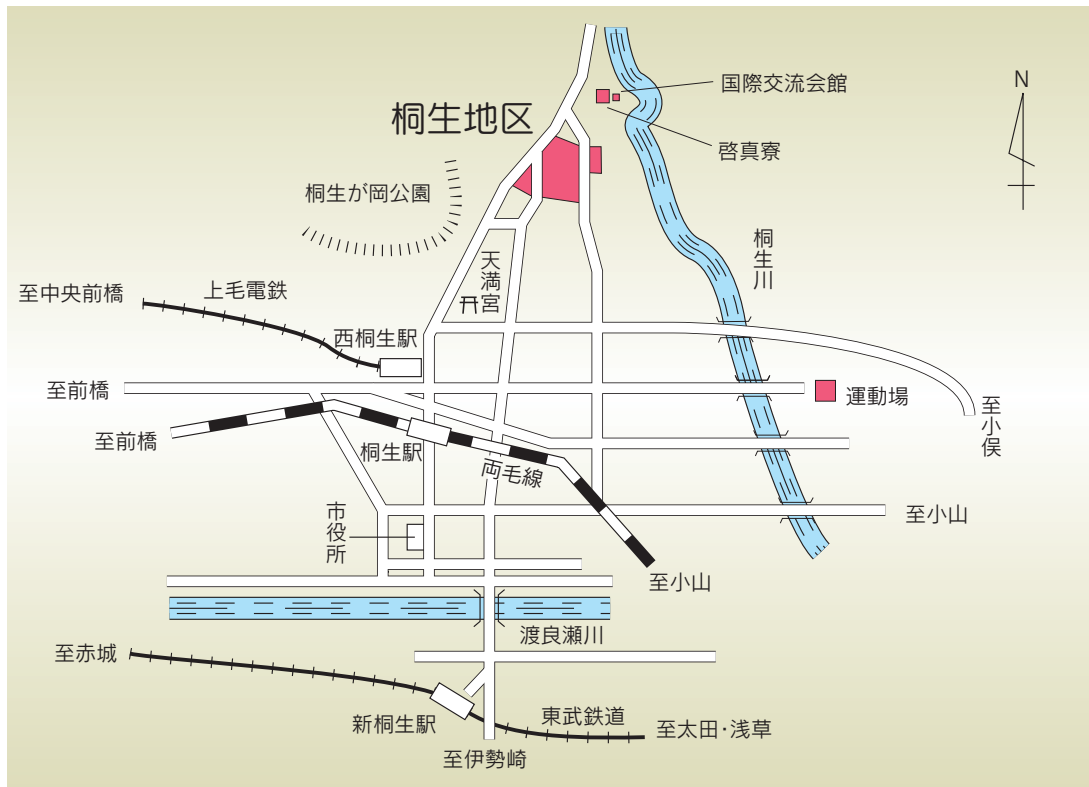
JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ4Km

バス

JR前橋駅北口6番乗り場

- ・ 富士見温泉行「北代田」下車 (所要時間約9分+徒歩15分) (関越交通バス)
- ・ 嶺公園行「県営住宅前」下車 (所要時間約11分+徒歩10分) (永井バス)

桐生地区



桐生地区

JR

JR両毛線にて桐生駅下車、北方へ2.5Km

東武桐生線にて新桐生駅下車、北方へ4.1Km

バス

JR桐生駅北口乗り場 (おりひめバス)

- ・ 梅田行「群馬大学工学部正門前」下車 (所要時間約7分)
- ・ 菱線右循環「群馬大学工学部正門前」下車 (所要時間約7分)

新桐生駅乗り場 (おりひめバス)

- ・ 桐生女子高行「群馬大学工学部正門前」下車 (所要時間約15分)

太田地区



太田地区

- 東武鉄道太田駅北口下車、徒歩約10分（市立太田小学校となり）
- 北関東自動車道 太田桐生ICから約10分



国立大学法人群馬大学徽章

昭和24年10月1日制定

周囲は群馬県の象徴である名勝赤城、榛名、妙義の上毛三山を浮彫りさせて大学を囲み、群馬大学の象徴としています。



国立大学法人群馬大学ロゴマーク

平成18年4月1日制定

群馬大学の英頭文字「G」をモチーフに緑と青で豊かな自然環境を示し、学生の成長と活躍をイメージして、新しい未来への創造と、社会へ貢献する大学の存在感を表現しています。

「ああ建学の」

■詞：梶田 一之 ■曲：相沢 聡 ■編曲：塚本 靖彦

1. たからかに果てなく響く歌声は
青春の歡喜の調べ
山あをく水きよら
ああ秀麗の国土とあかるく
わが希望かがやく姿よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑
2. たくましく生気に充つる歌声は
青春の至情の調べ
血はたぎり 胸をどり
ああ将来の文化をきずくと
わが理想もえたつ思いよ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑
3. とうとうと^{だい ち}大地をゆする歌声は
青春の叡智の調べ
^{たま}魂さやか ^{まへ}眉さたく
ああ^{しん おう}深奥の真理をみつむる
わが決意ゆるがぬ心よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑
4. すこやかに若やぎはづむ歌声は
青春の^{いのち}生命の調べ
^{あけ}暁しるし陽はいでて
ああ建学の理念のみちびく
わが前途あふるる光よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑



認証評価認定マーク

平成22年3月29日認定

独立行政法人大学評価・学位授与機構による平成21年度実施の大学機関別認証評価において、「本学は、大学設置基準をはじめ関係法令に適合し、大学評価・学位授与機構が定める大学評価基準を満たしている」と評価されました。



ISO 14001認証マーク

平成19年1月20日取得

中期計画においてISO 14001の認証取得の方針が示され、教職員・学生が一体となって環境対策への取り組みを推進しており、荒牧キャンパスが環境マネジメントシステムの国際規格を取得しました。



発行日

平成24年6月発行

編集

国立大学法人群馬大学総務部総務課広報係
〒371-8510 前橋市荒牧町四丁目2番地
TEL.027-220-7010 (7011) FAX.027-220-7012
URL:<http://www.gunma-u.ac.jp>



リサイクル適性 **A**

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

